

2018 年度

授業大要〔シラバス〕

(第 1 学年)

松本歯科大学衛生学院

歯科衛生士学科

＜目 次＞

建学の理念／教育目標	0 3
校歌	0 4
履修基準表	0 5
年間予定表	0 6
時間割表	0 8
歯科予防処置論 I	【全】0 9
歯科保健指導論 I	【全】1 5
歯科診療補助論 I	【全】1 8
口腔生命科学入門 I	【前】2 5
口腔生命科学入門 II	【前】2 6
英語コミュニケーション学	【前】2 7
人体の構造と機能 I	【前】2 8
人体の構造と機能 II	【前】3 0
歯・口腔の構造と機能 I	【前】3 1
歯・口腔の構造と機能 II	【前】3 3
口腔衛生学 I	【前】3 4
歯科衛生士概論	【前】3 5
医療コミュニケーション	【後】3 7
言語表現	【後】3 8
病理学・口腔病理学	【後】3 9
薬理学・歯科薬理学	【後】4 1
微生物学・口腔微生物学	【後】4 2
口腔衛生学 II	【後】4 3
衛生学・公衆衛生学	【後】4 4
栄養学・栄養指導法	【後】4 5
学則、諸規程関係	別冊

建学の理念

佐久間象山 福沢諭吉両先生の学訓に従い、
国手的精神に立脚し
教育と研究の有機的結合を強固にして大学の本質を常に究め
近代民主主義の本源的価値観と世界観を確立し
人間の尊厳を認識せしめつつ民主主義的人格を陶冶し
深遠な真理を追求しつつ科学思想昂揚の完璧を期するにある
過去より未来を通じての現代の世界史的位置を認識せしめ
偉大な人類の業績を讃えると共に
未来への方法と科学的展望を確立せしめる
教学一致の不断の研鑽と遠大な理想に基づき
輝ける高雅な環境の醸成につとめ
自治の尊厳を守り
芸術を尊び高度の情操を育成せしめる

創立者

矢崎 康

教育目標

松本歯科大学衛生学院（以下「本学院」という。）は、歯科衛生士に必要な知識と技術を教授するとともに、豊かな人格を養い、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。本学院は上記の目的に基づき、温かく豊かな人間性と幅広い教養を備え、口腔保健の専門的知識と技術を持って広く人々の健康と幸福に貢献するとともに、地域や国際社会の保健・医療・福祉・健康の課題に柔軟に対応できる感性豊かで創造力をもった総合的な口腔保健の専門医療人を養成することを目指すものである。

あゝ渺々の蒼穹に (松本歯科大学校歌)

詞/矢ヶ崎 康 曲/山本 直純

一、あゝ渺々の蒼穹に
いまぞ明け行く 信濃の朝
白雪吼ゆる 気高き雲峰に
理性の耳を 澄まし聞け
夜明けの歌と 国手の歌を
自由の響き いや歓喜あり
いざや探らん 世界の在りかを
いざや究めん 無限の法則を

二、あゝ深奥の渓谷に
いまぞ開けん 草野の香り
奈良井の川の いざよう岸に
理性の窓を開き見よ
碎け迷蒙 さやけき思考
自由の守り わが城にあり
いざや探らん 世界のありかを
いざや究めん 無限の法則を

三、あゝ姫麗の紅添えて
いまぞ染め行く 桔梗ヶ原の夕べ
深空に映ゆる 三色の星に
理性の胸を しづめ聞け
歩みの音と 進化の音を
自由の栄光 いや輝けり
いざや探らん 世界のありかを
いざや究めん 無限の法則を

一、信濃の朝と目覚め、山岳を表象。季節的には肌寒い早春を詠う。「夜明けの歌」というのは、転換期の時代がまさに明けそめていることを指し、それを信濃の朝にからませる。国手とは国を医する手の意。ここでは、あながち医家の精神のみを詠つてはいない。もっと大きなこと、つまり国を正す、国のすべてを是正する意をも含む。渺々とは、はてしなく限りなく広い形容。蒼穹は大空、大青空、天空。山頂の白雪が風のウナリと共に吹雪いでいる様を「白雪吼ゆる」と詠う。

二、木曾谷より突如として開けた「平野」(松本平)を表象。従つて、木曾谷より発して松本平を成している川を情緒として入れた。季節的には太陽の下に躍動する夏を詠う。さわやかな思考と新しくたくましい思想によつて古い頑迷や、コピリついた既成の観念を打ちやぶつて比類ない文化を打ちたてようとする精神を鼓舞する。深奥の渓谷は奥深い深山のけわしい谷合の意。一、の「聞く」に対する「行動」であり、朝に対する昼である。

三、美しい信州の秋から初冬に至る間の夕方から夜の美しさを表象。美しい紅葉に染まつて行く信州高原と、独特の美しい夕焼けをからませる。新しい時代がギシックと静かに静かにしのびよう。その音が自分たちの耳に実感として感じとれるようないい教養を身につけることを詠う。そして、それを学友会の三色旗に「冷静に反省」し、書うことを「三色の星」にからませる。姫麗は、容姿が美しくあでやかな意。

一、二、三共に、理性の不滅のタイマツを点しつつ、断乎として自由の道を探り、世界観を確立して、自然や社会の無限の法則性を飽くまで追求する精神を生き生きと共通させていく。全体として建学の理念を具体的に詠つたものである。

(作詞者)

校歌の解説

履修基準表

	教育内容	授業科目	授業形態	履修区分	単位数	時間数	履修年次及び授業時間数			
							1年	2年	3年	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	口腔生命科学入門 I	講義	必修	2	30	30			
		口腔生命科学入門 II	講義	必修	2	30	30			
		英語コミュニケーション学	講義	必修	2	30	30			
		歯科英語	講義	必修	2	30		30		
		医療コミュニケーション	演習	必修	2	30	30			
		言語表現	講義	必修	2	30	30			
小計					12	180	150	30	0	
専門基礎分野	人体(歯・口腔を除く)の構造と機能	人体の構造と機能 I	講義	必修	2	30	30			
		人体の構造と機能 II	講義	必修	2	30	30			
	歯・口腔の構造と機能	歯・口腔の構造と機能 I	講義	必修	4	60	60			
		歯・口腔の構造と機能 II	講義	必修	2	30	30			
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学・口腔病理学	講義	必修	2	30	30			
		薬理学・歯科薬理学	講義	必修	2	30	30			
		微生物学・口腔微生物学	講義	必修	2	30	30			
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学 I	講義	必修	2	30	30			
		口腔衛生学 II	講義	必修	2	30	30			
		衛生学・公衆衛生学	講義	必修	2	30	30			
		衛生行政・社会福祉	講義	必修	2	30		30		
小計					24	360	330	30	0	
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	講義	必修	2	30	30			
	臨床歯科医学	保存修復・歯内療法学	講義	必修	1	30		30		
		歯周療法学	講義	必修	1	30		30		
		歯科補綴学	講義	必修	1	30		30		
		口腔外科学	講義	必修	1	30		30		
		小児歯科学	講義	必修	1	30		30		
		歯科矯正学	講義	必修	1	30		30		
		歯科放射線・歯科麻酔学	講義	必修	1	30		30		
		障害者歯科学	講義	必修	1	30		30		
		高齢者歯科学	講義	必修	1	30		30		
	歯科予防処置論	摂食・嚥下学	演習	必修	1	30		30		
		歯科予防処置論 I	実習	必修	4	120	120			
		歯科予防処置論 II	実習	必修	3	90		90		
	歯科保健指導論	歯科予防処置論 III	実習	必修	2	60			60	
		歯科保健指導論 I	演習	必修	2	60	60			
		歯科保健指導論 II	演習	必修	3	90		90		
		歯科保健指導論 III	演習	必修	2	60			60	
	歯科診療補助論	栄養学・栄養指導法	講義	必修	2	30	30			
		歯科診療補助論 I	実習	必修	4	120	120			
		歯科診療補助論 II	実習	必修	3	90		90		
		歯科診療補助論 III	実習	必修	2	60			60	
臨地実習 (臨床実習を含む)	臨地実習 I	実習	必修	10	450		450			
	臨地実習 II	実習	必修	10	450			450		
	歯科衛生士特論	歯科衛生士特論	講義	必修	8	240			240	
小計					67	2250	360	1020	870	
選択必修分野		キャリアデザイン	演習	必修	2	30		30		
		医療事務(歯科)	講義	必修	4	70		70		
		健康管理	演習	必修	1	20			20	
小計					7	120	0	100	20	
合計					110	2910	840	1180	890	

2018年度 年間予定表																	
4月			5月			6月			7月			8月			9月		
1日			1火			1金			1日			1水			1土		
2月			2水	特別休業		2土			2月			2木			2日		
3火			3木	憲法記念日		3日			3火			3金			3月		
4水	3年オリエンテーション 2年オリエンテーション(1限)		4金	みどりの日		4月			4水			4土			4火		
5木	入学式		5土	こどもの日		5火			5木			5日			5水	2年前期定期試験 (~9/18)	
6金	1年オリエンテーション 2年オリエンテーション		6日			6水			6金			6月			6木		
7土			7月			7木			7土			7火			7金	1年前期定期試験 (~9/20)	
8日			8火			8金			8日			8水			8土		
9月	1年オリエンテーション		9水			9土			9月			9木			9日		
10火	1年オリエンテーション		10木	1~3年合同実習		10日			10火			10金			10月		
11水	1年オリエンテーション		11金			11月			11水			11土	山の日		11火		
12木			12土			12火			12木			12日			12水		
13金			13日			13水			13金			13月			13木		
14土			14月			14木			14土			14火			14金		
15日			15火			15金			15日			15水			15土		
16月			16水			16土			16月	海の日		16木			16日		
17火			17木			17日			17火	1年月曜授業		17金	3年 一日歯科衛生士体験		17月	敬老の日	
18水	交通安全講習会 18:00~		18金			18月			18水			18土			18火		
19木			19土			19火			19木			19日			19水	2年前期追再試験 (~9/28)	
20金			20日			20水			20金			20月			20木		
21土	3年 よい歯を守る相談会		21月			21木			21土			21火	2年夏季休業終了		21金	1年前期追再試験 (~9/28)	
22日			22火			22金			22日			22水	1年夏季休業終了		22土		
23月			23水	1年病院見学		23土			23月	1年夏季休業(~8/22) 2年夏季休業(~8/21)		23木			23日	秋分の日	
24火			24木			24日			24火			24金			24月	振替休日	
25水			25金			25月			25水			25土			25火		
26木			26土			26火			26木			26日	3年夏季休業終了		26水		
27金			27日			27水			27金			27月			27木	3年前期定期試験 (~9/28)	
28土			28月			28木			28土	3年 一日体験入学(2回目)		28火			28金		
29日	昭和の日 観桜会・松濤祭 一日体験入学(1回目)		29火			29金			29日			29水			29土		
30月	特別講義		30水	1年病院見学		30土			30月	3年夏季休業(~8/26)		30木			30日		
			31木						31火			31金					

2018年度 年間予定表																	
10月			11月			12月			1月			2月			3月		
1月	2年登院試験 (~10/9)		1木			1土			1火	元日		1金			1金		
2火			2金			2日			2水			2土			2土		
3水			3土	文化の日		3月			3木			3日			3日	歯科衛生士国家試験 (予定)	
4木			4日			4火			4金			4月			4月		
5金			5月			5水			5土			5火			5火		
6土			6火			6木			6日			6水			6水	2年後期定期試験 (~3/8)	
7日			7水			7金	3年企業見学		7月	2・3年冬季休業終了		7木	卒業証書授与式		7木		
8月	体育の日		8木			8土			8火	3年後期試験Ⅱ(~1/10) 1年冬季休業終了		8金			8金		
9火			9金			9日			9水	1年月曜授業		9土			9土		
10水	戴帽式		10土			10月			10木			10日			10日		
11木	2年臨地実習オリエンテーション(~10/23)		11日			11火			11金			11月	建国記念の日		11月		
12金			12月			12水			12土			12火	1年後期定期試験 (~2/22)		12火	2年後期追再試験 (~3/14)	
13土	3年 よい歯を守る相談会		13火			13木			13日			13水			13水		
14日			14水			14金			14月	成人の日 ファウンダーズデイ		14木			14木		
15月			15木			15土			15火			15金			15金		
16火			16金			16日			16水			16土			16土		
17水			17土			17月	3年後期試験Ⅰ (~12/18)		17木			17日			17日		
18木			18日			18火			18金	3年後期追再試験 (~1/22)		18月			18月		
19金			19月			19水			19土			19火			19火		
20土	体育祭		20火			20木			20日			20水			20水		
21日			21水			21金	1年冬季休業 (~1/8)		21月			21木			21木	春分の日	
22月			22木	3年小学校実習		22土			22火			22金			22金		
23火			23金	勤労感謝の日		23日	天皇誕生日		23水			23土			23土		
24水			24土	2・3年 医療事務技能審査		24月	2・3年冬季休業 (~1/7)		24木			24日			24日		
25木			25日			25火			25金			25月	1年後期追再試験 ・補習(~3/8)		25月		
26金	3年小学校実習		26月			26水			26土			26火			26火		
27土			27火			27木			27日			27水			27水		
28日			28水			28金			28月			28木			28木		
29月			29木			29土			29火	創立記念日					29金		
30火			30金			30日			30水						30土		
31水						31月			31木						31日		

松本歯科大学衛生学院 歯科衛生士学科 2018年度 第1学年時間割

科 目 名			担当教員名					
歯科予防処置論 I			竹岡亜紀、島田陽子、三村杏奈 高山きよ江、巣山絵里奈					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	前・後期		4単位(120時間)					
授業の目的(GIO)								
口腔疾患予防に対応した口腔保健管理の基礎を学び、口腔の健康維持・増進に必要な知識や技術について理解し、専門的処置を行うための基礎項目を習得する。								
教 科 書		最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)						
成 績 評 価		定期試験・実技試験の結果および課題の提出状況と内容を評価する。出席状況と授業態度も評価に加味する。						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	4/12	歯科予防処置論概説	1. 歯科衛生士の業務内容 2. 歯科予防処置の種類・目的	1)歯科衛生士が行う主な業務を列挙できる。 2)歯科予防業務の定義を説明できる。 3)歯科予防処置を目的別に分類し説明できる。				
2	4/17	インツルメント1	1. 実習用器具の名称・用途 2. 取扱いの注意事項・破損の確認法 3. 器具の収納法	1)使用頻度の高いハンドインツルメントの名称と用途を説明できる。 2)取扱いの注意事項を説明できる。				
3	4/19	インツルメント2	1. インツルメントの形態・特徴 2. 把持法の種類と利点・欠点	1)使用部位や用途別にインツルメントの特徴を説明できる。 2)把持法とその利点・欠点を説明できる。				
4	4/24	基礎知識1	1. 歯周組織 2. 口腔組織の健康像	1)歯周組織の名称を列挙できる。 2)口腔組織の特徴を説明できる。				
5	4/26	基礎知識2	1. 歯面付着物・沈着物の分類 2. 歯面付着物・沈着物の特徴 3. プラークの分類・特徴	1)歯面付着物・沈着物を列挙できる。 2)歯面付着物・沈着物の特徴を説明できる。 3)プラークの分類・特徴を説明できる。				
6	5/1	基礎知識3	1. 歯石の分類・特徴 2. 歯周疾患の分類・特徴	1)歯石の分類・特徴を説明できる。 2)歯周疾患の分類・特徴を説明できる。				
7	5/8	基礎知識4	1. ポケットの分類・特徴 2. 歯周疾患の全身的因子 3. 歯周疾患の局所的因子	1)ポケットの分類・特徴を説明できる。 2)歯周疾患の全身的因子・局所的因子を列挙できる。				
8	5/15	基礎知識5	1. プラーク増加因子 2. 歯周疾患の進行 3. 基礎項目の問題演習	1)プラーク増加因子を列挙できる。 2)歯周組織の病的変化を説明できる。 3)歯科予防処置の基礎項目を理解できる。				
9	5/17	プロービング1	1. プローブの使用目的 2. プローブの種類・特徴①	1)プローブの使用目的を説明できる。 2)プローブの種類を列挙できる。				
10	5/22	プロービング2	1. プローブの種類・特徴② 2. プローブの把持法 3. プローブ操作の原則	1)プローブの特徴を説明できる。 2)プローブの把持法を説明できる。 3)操作の原則を説明できる。				
11	5/24	プロービング3	1. 測定部位と操作時の注意 2. プロービング値の記入法 3. ポケット測定実習(頸模型)	1)操作の注意事項を説明できる。 2)原則を守りポケットを測定できる。 3)測定値を正しく記録できる。				
12	5/29	プロービング4	1. ポケット測定実習(口腔内) 2. 付着歯肉幅測定実習(口腔内)	1)原則を守りポケットを測定できる。 2)付着歯肉幅を測定できる。 3)測定値を正しく記録できる。				

13	5/31	手用スケーラー	1. 手用スケーラーの種類・特徴 2. 手用スケーラーの使用目的	1) 手用スケーラーの種類を列挙できる。 2) 手用スケーラーの特徴と使用目的を説明できる。	竹岡
14	6/5	鎌型スケーラー1	1. 鎌型スケーラーの使用目的 2. 鎌型スケーラーの種類・特徴	1) 鎌型スケーラーの使用目的を説明できる。 2) 鎌型スケーラーの種類・特徴を説明できる。	竹岡
15	6/7	鎌型スケーラー2	1. 鎌型スケーラーの把持・操作法 2. 操作時の注意・4原則	1) 鎌型スケーラーの把持・操作法を説明できる。 2) 操作の注意事項と4原則を説明できる。	竹岡
16	6/12	鎌型スケーラー 模型実習説明	1. ポジション・姿勢 2. 把持・固定法 3. 手腕の動き 4. 机上練習	1) 部位に適したポジション・姿勢を説明できる。 2) 把持・固定法を説明できる。 3) 手腕の動きを説明できる。 4) 手用スケーラーの基本操作を説明できる。	竹岡
17	6/14	鎌形スケーラー 模型実習1	1. マネキンへの模型装着法 2. 前腕回転運動(左半分)① ・上顎前歯部唇側面 ・上顎臼歯部頬側面	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 指定部位のスケーラー操作ができる。 4) 取り残しの確認ができる。	竹岡
18	6/19	鎌形スケーラー 模型実習2	前腕回転運動(左半分)② ・上顎前歯部唇側面 ・上顎臼歯部頬側面	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 指定部位のスケーラー操作ができる。 4) 取り残しの確認ができる。	竹岡
19	6/21	鎌形スケーラー 模型実習3	1. 前腕回転運動(左半分)③ ・上顎前歯部唇側面 ・上顎臼歯部頬側面 2. 前腕回転運動(右半分)④ ・上顎前歯部唇側面 ・上顎臼歯部頬側面	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 指定部位のスケーラー操作ができる。 4) 取り残しの確認ができる。	竹岡
20	6/26	鎌形スケーラー 模型実習4	1. 前腕回転運動(右半分)⑤ ・上顎前歯部唇側面 ・上顎臼歯部頬側面 2. 手指屈伸運動① ・上顎前歯部唇側面 ・上顎臼歯部頬側面	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 2種類の運動を区別して指定部位のスケーラー操作ができる。 4) 取り残しの確認ができる。	竹岡
21	6/28	鎌形スケーラー 模型実習5	手指屈伸運動② ・上顎前歯部唇側面 ・上顎臼歯部頬側面	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 指定部位のスケーラー操作ができる。 4) 取り残しの確認ができる。	竹岡
22	7/3	鎌形スケーラー 模型実習6	1. 手指屈伸運動③ ・上顎前歯部唇側面 ・上顎臼歯部頬側面 2. 手根関節運動(動きの確認)	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 指定部位のスケーラー操作ができる。 4) 取り残しの確認ができる。	竹岡
23	7/5	鎌形スケーラー 模型実習7	手指屈伸運動④ ・上下顎前歯部唇側面 ・上下顎臼歯部頬側面	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 指定部位のスケーラー操作ができる。 4) 取り残しの確認ができる。	竹岡
24	7/10	鎌形スケーラー 模型実習8	手指屈伸運動⑤ ・上下顎前歯部唇側面 ・上下顎臼歯部頬側面	1) マネキン実習の準備ができる。 2) 部位に適したポジションを設定できる。 3) 指定部位のスケーラー操作ができる。 4) 取り残しの確認ができる。	竹岡
25	7/12	鋭匙型スケーラー1	1. 鋭匙型スケーラーの使用目的 2. 鋭匙型スケーラーの種類・特徴①	1) 鋭匙型スケーラーの使用目的を説明できる。 2) 鋭匙型スケーラーの種類を列挙できる。	竹岡

26	7/19	鋭匙型スケーラー2	1. 鋭匙型スケーラーの種類・特徴② 2. 鋭匙型スケーラーの把持・操作法 3. 操作時の注意	1)鋭匙型スケーラーの種類・特徴を説明できる。 2)鋭匙型スケーラーの把持法・操作法を説明できる。 3)操作の注意事項を説明できる。	竹岡
27	8/23	マネキン実習説明1	1. マネキンの取り扱い ・頭部の角度・開口度設定 2. ポジション・姿勢 3. 探針操作説明 ・使用目的 ・操作時の注意	1)適切にマネキンを取り扱うことができる。 2)探針の使用目的を説明できる。 3)探針操作の注意事項を説明できる。 4)指定部位の探針操作ができる。	竹岡
28	8/28	マネキン実習説明2	1. ミラー操作説明 ・使用目的 ・操作時の注意 2. 操作表作成(宿題)	1)ミラーの使用目的を説明できる。 2)ミラー操作の注意事項を説明できる。 3)ミラー視により探針を操作できる。 4)鋭匙型スケーラーの操作表を作成できる。	竹岡
29	8/30	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習1}	スケーリング実習① (操作表より部位・運動指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
30	9/4	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習2}	スケーリング実習② (操作表より部位・運動指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
31	10/1	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習3}	スケーリング実習③ (操作表より部位・運動指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
32	10/2	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習4}	スケーリング実習④ (操作表より部位・運動指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
33	10/9	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習5}	スケーリング実習⑤ (操作表より部位・運動指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
34	10/15	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習6}	スケーリング実習⑥ (操作表より部位・運動指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
35	10/16	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習7}	スケーリング実習⑦ (指定の順序で全顎スケーリング)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡

36	10/22	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習8}	スケーリング実習⑧ ^(各自前回の続き)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
37	10/23	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習9}	スケーリング実習⑨ ^(各自前回の続き)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
38	10/29	鋭匙型スケーラー ^{マネキン実習10}	スケーリング実習⑩ ^(各自前回の続き)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
39	10/30	鋭匙型スケーラー ^{実技試験1}	スケーリング実技試験① ^(部位指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。 6)各段階で作業状況の報告ができる。	竹岡
40	11/5	鋭匙型スケーラー ^{実技試験2}	スケーリング実技試験② ^(部位指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。 6)各段階で作業状況の報告ができる。	竹岡
41	11/6	鎌型スケーラー ^{マネキン実習(復習)1}	スケーリング実習①	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
42	11/12	鎌型スケーラー ^{マネキン実習(復習)2}	スケーリング実習②	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。	竹岡
43	11/13	鎌型スケーラー ^{実技試験1}	スケーリング実技試験① ^(部位指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。 6)各段階で作業状況の報告ができる。	竹岡
44	11/19	鎌型スケーラー ^{実技試験2}	スケーリング実技試験② ^(部位指定)	1)マネキン実習の準備ができる。 2)部位に適したポジションを設定できる。 3)指定部位のスケーラー操作ができる。 4)適切なミラー操作ができる。 5)取り残しの確認ができる。 6)各段階で作業状況の報告ができる。	竹岡

45	11/20	超音波スケーラー1	1. 使用目的 2. 原理と構造 3. 利点・欠点	1)超音波スケーラーの使用目的を説明できる。 2)原理と構造を説明できる。 3)手用スケーラーと比較して利点・欠点を説明できる。	竹岡
46	11/26	超音波スケーラー2	1. 適応症・禁忌症 2. 超音波スケーラーの把持・操作法 3. 操作時の注意	1)適応症・禁忌症を列挙できる。 2)操作の注意事項を説明できる。	竹岡
47	11/27	超音波スケーラー3	1. 操作法復習 2. 模型実習	1)模型実習の準備ができる。 2)原則を守り超音波スケーラーを操作できる。	竹岡
48	12/3	歯面研磨1	1. 歯面研磨の目的 2. 歯面研磨器具の種類・特徴 3. 歯面研磨剤の使用目的 4. 歯面研磨剤の所要条件	1)歯面研磨の目的を説明できる。 2)歯面研磨器具の種類・特徴を説明できる。 3)研磨剤の使用目的を説明できる。 4)研磨剤の所要条件を説明できる。	竹岡
49	12/4	歯面研磨2 (PMTC)	1. PMTC の定義・位置づけ 2. PMTC の目的・効果 3. PMTC の基本術式	1)PMTC の定義を説明できる。 2)PMTC の目的・効果を説明できる。 3)PMTC の術式を説明できる。	竹岡
50	12/10	歯面研磨3・4	1. コントラアングルHPの操作法 2. 操作時の注意 3. 模型実習	1)アタッチメント別に操作法を説明できる。 2)操作の注意事項を説明できる。 3)模型実習の準備ができる。 4)原則を守り操作できる。	竹岡
51	12/11				
52	12/17	う蝕予防処置1	1. う蝕予防処置の種類 ・フッ化物歯面塗布法 ・小窩裂溝填塞法 ・フッ化ジアンミン銀塗布法 2. フッ化物歯面塗布法① ・フッ化物の応用法 ・塗布用フッ化物製剤の種類・濃度	1)う蝕予防処置法の種類を列挙できる。 2)フッ化物の応用法を説明できる。 3)フッ化物製剤の種類と濃度を説明できる。	竹岡
53	12/18	う蝕予防処置2	フッ化物歯面塗布法② ・作用機序 ・術式 ・安全性への配慮	1)塗布用フッ化物の作用機序を説明できる。 2)フッ化物歯面塗法(ゲル使用)の術式を説明できる。 3)フッ化物の安全性・毒性を説明できる。	竹岡
54	1/9	う蝕予防処置3	小窩裂溝填塞法 ・填塞材の種類 ・目的・適応 ・術式 ・取扱いの注意事項	1)填塞材の種類を列挙できる。 2)小窩裂溝填塞の目的・適応を説明できる。 3)小窩裂溝填塞の術式を説明できる。 4)填塞の注意事項を説明できる。	竹岡
55	1/15	う蝕予防処置4	1. フッ化ジアンミン銀塗布法 ・目的・適応 ・性状・特徴 ・取扱いの注意事項 2. フッ化物洗口法 ・応用法 ・洗口剤の種類・濃度	1)塗布の目的・適応を説明できる。 2)溶液の性状・特徴を説明できる。 3)取扱いの注意事項と汚染時の対応法を説明できる。 4)フッ化物洗口の応用法を説明できる。 5)洗口剤の種類と濃度を列挙できる。	竹岡

56	1/21	う蝕活動性試験1	1. う蝕活動性試験の目的・特徴 2. 試験の種類・検体	1)う蝕活動性試験の目的・特徴を説明できる。 2)試験の種類と検体を列挙できる。	竹岡
57	1/22	相互実習説明1	1. 実習の目的・心構え 2. 実習器材① 3. 清潔器材の取扱い 4. 実習の注意事項 5. 問診法①	1)相互実習の目的を理解できる。 2)使用器材の名称・用途を説明できる。 3)器材の取扱い方法と注意事項を説明できる。 4)環境整備、安全配慮の重要性を理解できる。 5)問診内容と目的を理解できる。	竹岡
58	1/28	相互実習説明2	1. 実習器材② 2. 歯石除去実習の基本術式 3. 染色法・研磨法	1)使用器材の名称・用途を説明できる。 2)歯石除去実習の流れを理解できる。 3)染色・研磨の手順を説明できる。	竹岡
59	2/4	相互実習説明3	1. 器材セッティング・誘導① 2. 使用器材の片付け 3. チェアユニットの清掃	1)セッティング・誘導の手順を説明できる。 2)片付けの注意事項を理解できる。 3)診療室内の環境整備を理解できる。	竹岡
60	2/5	相互実習説明4	1. 器材セッティング・誘導② 2. 実習記録作成法 ・実施事項 ・口腔内所見 ・反省・課題 3. 問診法②	1)セッティング・誘導の手順を説明できる。 2)記録作成の意義・目的を理解できる。 3)実習記録の記載法を理解できる。 4)聞き取りによる問診を実施できる。	竹岡

科 目 名			担当教員名			
歯科保健指導論 I			島田陽子、三村杏奈、巣山絵里奈、 竹岡亜紀、高山きよ江、他			
学 年		学 期	単位数(時間数)			
第1学年		前・後期	2単位(60時間)			
授業の目的(GIO)						
口腔保健の基礎を理解するために、口腔内に関心を持ち、歯科衛生士として必要な基礎項目を習得しながら、歯科保健指導に求められる知識を理解し、技術を体得する。						
教 科 書		全国歯科衛生士教育協議会監修: 最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」(医歯薬出版)				
成 績 評 価		定期試験および課題の提出状況・結果を評価対象とする。出席状況と授業態度も評価に加味する。				
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標		
1	4/16	歯科保健指導概論	歯科保健指導の概要	1. 授業の進めかたおよび注意事項を理解できる。 2. 歯科保健指導の定義を説明できる。		
2	4/23	口腔清掃自習法1	1. 歯の付着物・沈着物 2. 口腔内観察	1. 歯の付着物・沈着物の種類を列挙できる。 2. 自分自身の口腔内状態を把握できる。 3. 使用器材を適切に扱うことができる。		
3	5/7	口腔清掃自習法2	口腔清掃自習法	1. 齒垢染色剤の種類と所要条件を説明できる。 2. 齒垢の染色方法を説明できる。 3. 齒垢を識別できる。 4. 自分自身のブラッシング方法を工夫できる。		
4	5/10	合同実習	ブラッシング指導合同実習	1. 2年生・3年生とコミュニケーションをはかることができる。 2. 自分自身の口腔内の問題点を見つけることができる。 3. 患者の立場となってブラッシング指導を受けることができる。 4. 実習を振り返り、記録を作成できる。		
5						
6						
7						
8	5/14	口腔ケア用品1	歯ブラシ	1. 歯ブラシの形態を説明できる。 2. 歯ブラシの保管と管理について説明できる。 3. 歯ブラシの交換時期を説明できる。		
9	5/21	ブラッシング法1	1. 歯ブラシの基本操作 2. 毛先を用いるブラッシング法	1. 歯ブラシの持ち方を説明できる。 2. 各種ブラッシング法を列挙できる。 3. 操作法、適応、特徴を説明できる。 4. 模型上で正しく操作できる。 5. 口腔全体を磨く順番を説明できる。 6. 適切なブラッシング圧を説明できる。		
10	5/28	ブラッシング法2	わき腹を用いるブラッシング法			
11	6/4	ブラッシング法3	1. 症例に合わせたブラッシング法 2. 操作実習	1. 1歯3面磨きを説明できる。 2. 3方向磨きを説明できる。 3. つまさき・かかと磨きを説明できる。 4. 口腔内で各種ブラッシング法を実践できる。 5. 自分自身のブラッシング圧を改善できる。 6. 歯ブラシの硬さを比較できる。		

12	6/11	口腔ケア用品2	1. 歯ブラシ以外の清掃用具 2. デンタルフロス	1. 歯ブラシ以外の清掃用具を列挙できる。 2. 歯ブラシ以外の清掃用具の使用方法を説明できる。 3. デンタルフロスの使用目的を説明できる。 4. デンタルフロスの使用方法を説明できる。 5. 模型上および口腔内で操作できる。	三村
13	6/18	口腔ケア用品3	1. 歯間ブラシ 2. ワンタフトブラシ	1. 歯間ブラシの選択方法を説明できる。 2. 歯間ブラシの適応部位を説明できる。 3. 歯間ブラシの使用方法を説明できる。 4. ワンタフトブラシの適応部位を説明できる。 5. ワンタフトブラシの使用方法を説明できる。 6. 為害作用を述べることができる。	三村
14	6/25	口腔ケア用品4	操作実習	1. スクラビング法を口腔内で実践できる。 2. デンタルフロスを口腔内で操作できる。 3. ワンタフトブラシを口腔内で正しく操作できる。 4. 歯間ブラシを口腔内で操作できる。 5. 各種歯間ブラシを比較し、特徴を述べることができる。	三村
15	7/2	ブラッシング法4 (TBI セミナー)	毛先磨き法 (株式会社GC)	1. 毛先磨きの原則を述べることができる。 2. 「鉛筆磨き」実習を行い、口腔内で毛先磨きを工夫できる。 3. 補助用具を列挙できる。	佐々木 紗羅
16	7/9	ブラッシング法5	ブラッシングの利点・欠点	1. グループワークの流れを理解できる。 2. グループワークの手法を用いて利点・欠点をまとめ、発表できる。	島田
17	7/17	ブラッシング法6	為害作用	1. ブラッシングの目的を説明できる。 2. 為害作用の分類と特徴を説明できる。	島田
18	8/27	歯磨剤1	グループワーク	1. 選択した歯磨剤の特徴を述べることができる。 2. 各種製品の特徴を観察できる。	島田
19	8/31	歯磨剤2	歯磨剤セミナー (日本歯磨工業会)	1. 歯磨剤の効能・効果について説明できる。 2. 歯磨剤の成分と作用について説明できる。 3. フッ化物の機能について説明できる。	落合 良仁
20	9/3	歯磨剤3	歯磨剤・洗口剤	1. 薬事法による分類を説明できる。 2. 成分とその作用を説明できる。 3. 基本的使用法を説明できる。	島田
21	10/3	口腔清掃状態の評価 1	PCR	1. 数値化の目的を述べることができる。 2. PCRの観察部位・計算方法を説明できる。 3. PCRを算定できる。	島田
22	10/10	口腔清掃状態の評価 2	1. OHI 2. OHI-S	1. OHIの観察部位・計算方法を述べることができる。 2. OHI-Sの観察部位・計算方法を説明できる。 3. OHI、OHI-Sを算定できる。	島田
23	10/17	口腔清掃状態の評価 3	1. PHP 2. PII	1. PHPの観察部位・計算方法を述べることができる。 2. PIIの観察部位・計算方法を説明できる。 3. PHP、PIIを算定できる。	島田
24	10/24	対象把握1	グループワーク	歯科保健指導に必要な患者情報を列挙できる。	島田

25	10/31	対象把握2	患者情報	1. 情報の必要性を述べることができる。 2. 守秘義務について説明できる。	島田
26	11/7	対象把握3	対象把握法	1. 情報を整理できる。 2. 情報の応用法について述べることができる。	島田
27	11/14	面接問診法1	医療面接	1. 医療面接の目的を列挙できる。 2. 問診と医療面接の違いを説明できる。	島田
28	11/21	面接問診法2	話す・聴く	1. コミュニケーション技法を述べることができる。 2. 「話す・聴く」態度が相手に与える印象を考察できる。 3. 話し方・聴き方を工夫できる。	島田
29	11/28	モチベーション1	保健指導の流れ グループワーク	1. 歯科保健指導の流れを述べることができる。 2. 各ステップの意義を説明できる。 3. モチベーションの意義を述べることができる。 4. 設定に応じたプランを作成できる。	島田
30	12/5	モチベーション2	モチベーション	1. モチベーションプランを発表できる。 2. 他者のプランを評価できる。	島田
31	12/12	口腔清掃指導法1	媒体の応用 口腔清掃指導実習① ポジションの理解	1. 媒体の種類を列挙できる。 2. 媒体の特徴を説明できる。 3. 媒体の効果を説明できる。 4. 対話時における話法を工夫できる。 5. 対話時における環境への配慮をできる。 6. 対話時に適したポジションを工夫できる。	巣山
32	12/19	口腔清掃指導法2	口腔清掃指導実習② 媒体の使用法	1. TBIの定義を述べることができる。 2. 対話時に適したポジションを工夫できる。 3. コミュニケーションを工夫し、対話できる。 4. 対話時における環境に配慮できる。 5. 媒体を応用した指導法を工夫できる。 6. 媒体を用いてスクラビング法をわかりやすく説明できる。 7. 部位に応じた媒体の見せ方を工夫できる。	巣山
33	1/16	口腔清掃指導法3	口腔清掃指導実習③ スクラビング法 つま先かかと磨き	1. スクラビング法をわかりやすく説明できる。 2. つま先かかと磨きをわかりやすく説明できる。 3. 患者のブラッシング技術を評価できる。 4. グループで各々の課題および改善策を検討できる。	巣山
34	1/23	口腔清掃指導法4	口腔清掃指導実習④ デンタルフロス タフトブラシ	1. デンタルフロス・指巻き法をわかりやすく説明できる。 2. タフトブラシの操作法をわかりやすく説明できる。 3. 患者のフロッシングおよびブラッシング技術を評価できる。 4. グループで各々の課題および改善策を検討できる。	巣山
35	1/30	口腔清掃指導法5	口腔清掃指導実習⑤ まとめ	1. わかりやすい指導法を工夫できる。 2. 自分自身の課題を明確にできる。	巣山

科 目 名			担当教員名			
歯科診療補助論 I			三村杏奈、巣山絵里奈、高山きよ江、 土屋総一郎、島田陽子、竹岡亜紀			
学 年		学 期	単位数(時間数)			
第1学年		前・後期	4単位(120 時間)			
授業の目的(GIO)						
歯科診療に対する関心を持ち、各項目に対する知識・技術を習得する。また、チーム医療における共同動作の意義を理解し、知識・技術についても習得する。						
教 科 書		最新歯科衛生士教本:歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本:歯科機器 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本:歯科材料 (医歯薬出版) チアサイドのアシスタントワーク (医歯薬出版)				
成 績 評 価		定期試験、授業態度、課題の提出、出席状況などから総合的に評価する。				
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標		
1	4/16	概説	歯科診療補助における歯科衛生士の役割	1. 歯科衛生士の業務について概説できる。 2. 補助と介助の違いを述べることができる。 3. 法的責任について述べることができる。 4. 基礎実習に対する心構えをもつことができる。 5. 診療補助における歯科衛生士の役割を列挙できる。		
2	4/17	器材拭きガーゼ作製	1. 身だしなみ 2. 実習に必要な器材拭きガーゼの作製	1. 身だしなみを整え、実習に臨むことができる。 2. 器材拭きを指示通りに作製することができる。 3. 協力し、助け合いながら作製できる。		
3	4/18	感染予防対策 1	手指消毒	1. 手指消毒法について説明できる。 2. 手指消毒を実施できる。		
4	4/24	感染予防対策 2	1. 医療安全 2. 標準予防策 (スタンダードプレコーション)	1. 医療安全の概念を説明できる。 2. 感染症と感染予防対策について説明できる。 3. 標準予防策の概念を述べることができる。 4. 院内感染について説明できる。		
5	4/25	感染予防対策 3	1. 減菌法・消毒法 2. 感染症汚染器具の取り扱い 3. 減菌・消毒済み器具の取り扱いと保管 4. 医療廃棄物	1. 減菌と消毒の意義について説明できる。 2. 減菌法・消毒法を説明できる。 3. 主な消毒薬の用途と使用濃度を列挙できる。 4. 器具・器材の消毒、洗浄、管理を説明できる。 5. 感染症患者の器具・器材の取り扱いについて説明できる。 6. 減菌物の保管方法を説明できる。 7. 医療廃棄物の取り扱いを説明できる。		
6	5/1	衛生材料1	ロールワッテ・洗浄用綿球作製	1. 衛生材料について説明できる。 2. 用途、種類について説明できる。 3. 作製方法について説明できる。 4. 作製技術を習得できる。		
7	5/8	概説	歯科材料の基礎知識	歯科衛生士に必要な歯科材料について理解する。		

8	5/9	衛生材料 2	塗布用綿球・拭掃用綿球作製	1. 衛生材料について説明できる。 2. 用途、種類について説明できる。 3. 作製方法について説明できる。 4. 作製技術を習得できる。	三村
9	5/15	印象材 1	ハイドロコロイド系印象材	アルジネート印象材寒天印象材の特性について理解する。	土屋
10	5/16	綿栓	プローチ綿栓	1. 歯の構造と歯の程度について説明できる。 2. プローチの構造について説明できる。 3. プローチの用途について説明できる。 4. 作製技術を習得できる。	三村
11	5/22	印象材	1. 歯科材料の取り扱い 2. 印象材の分類 3. 印象採得法の分類	1. 歯科材料を取り扱う留意点を説明できる。 2. 印象材の分類、種類を説明できる。 3. 各種印象材の所要性質を説明できる。 4. 良い印象の条件を列挙できる。 5. 印象採得法の分類を説明できる。	巣山
12	5/29	アルジネート印象材 1	1. アルジネート印象材の基礎知識 2. スパチュラ、ラバーボールの把持 3. スパチュラの動かし方	1. 基本的性質を説明できる。 2. 用途、成分、硬化時間、特徴を説明できる。 3. 練和に必要な器材を列挙できる。 4. 取り扱い方法を説明できる。 5. スパチュラとラバーボールを正しく把持できる。 6. ラバーボールの内面とスパチュラの彎曲を合わせてスパチュラを回転させることができる。	巣山
13	6/5	アルジネート印象材 2	1. 計量 2. 練和(スローセット)	1. 粉末と水を手順通りに計量できる。 2. アルジネート印象材の練和操作ができる。 3. 練和器具を清掃できる。	巣山
14	6/6	アルジネート印象材 3	1. 練和(スローセット) 2. 気泡抜き	1. アルジネート印象材を練和できる。 2. 練和から気泡抜きまで実施できる。	巣山
15	6/12	アルジネート印象材 4	1. 印象用トレー 2. 印象採得の手順 3. 練和(ノーマルセット)	1. 各種印象用トレーを列挙できる。 2. 採得方法と手順を説明できる。 3. トレーの撤去方法と注意点を説明できる。 4. 練和技術の向上ができる。	巣山
16	6/13	アルジネート印象材 5	1. 回転トレーへの盛り付け 2. 上顎トレーへの盛り付け 3. 下顎トレーへの盛り付け	1. トレーの保管、管理について説明できる。 2. 感染症患者に使用した器材の消毒方法を説明できる。 3. 固定液の目的、用途を説明できる。 4. テクニコールボンド®について説明できる。 5. 嘔吐反射の対策について説明できる。 6. 計測時間内に練和から気泡抜きまでできる。 7. 回転トレーへ盛り付けることができる。 8. 上下顎トレーへ盛り付けることができる。	巣山
17	6/19	印象材 2	ゴム質印象材	ゴム質印象材の特性について理解する。	土屋
18	6/20	アルジネート印象材 6	印象採得	1. アルジネート印象採得における使用器材を準備できる。 2. 顎模型上で上下顎の印象採得ができる。 3. 印象採得の介助ができる。 4. 印象体の評価ができる。	巣山

19	6/26	シリコーンゴム印象材 1	1. 合成ゴム質印象材 2. シリコーンゴム印象材 3. ヘビーボディタイプのねつ和	1. 印象材の性質を説明できる。 2. シリコーンゴム印象材の種類を説明できる。 3. シリコーンゴム印象材の特徴を説明できる。 4. ヘビーボディタイプの用途を説明できる。 5. ヘビーボディタイプをねつ和することができる。	巣山
20	6/27	シリコーンゴム印象材 2	シリコーンゴム印象材 (インジェクションタイプ)	1. インジェクションタイプの用途を説明できる。 2. 必要器材を列挙できる。 3. 器具・器材を正しく操作できる。 4. インジェクションタイプを練和できる。	巣山
21	7/3	シリコーンゴム印象材 3	シリンジの取り扱い	1. シリンジの種類を列挙できる。 2. シリンジの使用目的を説明できる。 3. 必要器材を列挙できる。 4. メタル製シリンジの分解・組み立てができる。 5. メタル製シリンジへの填入ができる。 6. プラスチックシリンジへの填入ができる。 7. シリンジを清掃できる。	巣山
22	7/4	シリコーンゴム印象材 4	シリコーンゴム印象材 (レギュラータイプ)	1. レギュラータイプの用途を説明できる。 2. 個人トレー・個歯トレーの用途、使用方法を説明できる。 3. アドヒーシブの使用方法を説明できる。 4. レギュラータイプを練和できる。 5. カートリッジディスペンサーの各部名称を説明できる。 6. カートリッジディスペンサーにカートリッジを着脱できる。 7. カートリッジにミキシングチップを装着できる。 8. 個人トレーへの盛り付けができる。	巣山
23	7/10	シリコーンゴム印象材 5	積層 1 回連合印象法 積層 2 回連合印象法	1. 連合印象採得の目的、方法を説明できる。 2. 連合印象採得の必要器材を準備できる。 3. 頸模型上で連合印象採得ができる。 4. 器具やトレーの受け渡しができる。 5. 印象体の評価ができる。	巣山
24	7/11	その他の印象材 1	ポリエーテルゴム印象材 ポリサルファイドゴム印象材	1. 印象材の性質を説明できる。 2. 成分、用途、特徴を説明できる。 3. 必要器材を列挙できる。 4. 取り扱い方法を説明できる。	巣山
25	7/18	その他の印象材 2	モデリングコンパウンド 酸化亜鉛ユージノールペースト	1. 印象材の性質を説明できる。 2. 成分、用途、特徴を説明できる。 3. 取り扱い方法を説明できる。 4. 軟化方法とウォーターバスの取扱い方法を説明できる。	巣山
26	8/27	寒天印象材 1	寒天印象材の取り扱い	1. 印象材の性質を説明できる。 2. 成分、用途、特徴を説明できる。 3. 取り扱い方法を説明できる。 4. 寒天印象材の種類を列挙できる。 5. コンディショナーと水冷式トレーの取り扱い方法を説明できる。	巣山

27	8/28	寒天印象材 2	寒天・アルジネート連合印象採得	1. 寒天・アルジネート印象採得における使用器材を準備できる。 2. 採得手順、方法を説明できる。 3. 頸模型上で連合印象採得ができる。 4. 器具やトレーの受け渡しができる。 5. 印象に対する自己評価ができる。	巣山
28	8/29	模型材	石膏模型材	模型用石膏の硬化反応と特性について理解する。	土屋
29	9/4	模型材 石膏 1	1. 石膏模型材 2. 実習	1. 模型の種類、用途、混水比を説明できる。 2. 硬化遅延法と促進法を説明できる。 3. 取扱い方法と注意点を説明できる。 4. 必要器材を列挙できる。 5. 練和ができる。 6. 石膏の反応熱を確認できる。	巣山
30	9/5	石膏 2	1. 実験 2. 石膏模型作製(頸模型) 3. 実験結果まとめ・発表 4. 石膏模型の評価	1. 実験の目的を説明できる。 2. 石膏の硬化・反応熱を説明できる。 3. 硬化を促進させる方法を説明できる。 4. 概形印象採得、石膏模型作製の手順と注意点について説明できる。 5. 頸模型上で片頸の印象採得ができる。 6. 印象へ石膏を注入できる。 7. 作製した石膏模型を評価できる。	巣山
31	10/1	共同動作 1	1. 歯科用ユニットの構造、機能 2. 共同動作の概念 3. 術者・補助者・患者のポジショニング 4. 診療時のライティング	1. 歯科用ユニットの構造、機能を概説できる。 2. 共同動作の概念を説明できる。 3. 術者のポジショニングを説明できる。 4. 補助者のポジショニングを説明できる。 5. 患者のポジショニングを説明できる。 6. ライティングの角度を説明できる。	高山
32	10/4	共同動作 2	1. 実習 1) 患者誘導 2) 歯科用ユニットの操作	1. 歯科用ユニットの各部の名称を説明できる。 2. 歯科用ユニットの操作方法を説明できる。 3. 患者誘導を説明できる。 4. チェアセッティングを説明できる。 5. エプロン掛けができる。 6. 各々の立場で課題や改善策を検討できる。	高山
33	10/11	共同動作 3	1. フォーハンデッドデンティストリー 2. 器具の受け渡し 3. 実習 1) 患者誘導 2) 器具の受け渡し ① ペングリップ ② パームグリップ	1. フォーハンデッドデンティストリーを説明できる。 2. フォーハンドの手順、原則を説明できる。 3. 器具の受け渡しの注意点を説明できる。 4. 患者誘導ができる。 5. チェアセッティングができる。 6. 部位に応じたポジションを設定できる。 7. ライティングができる。 8. 器具に適した受け渡しができる。 9. 患者の安全に配慮できる。 10. 各々の立場で課題や改善策を検討できる。	高山
34	10/15	共同動作 4			高山

35	10/18	バキューム・スリーウェイシリングテクニック 1	1. バキュームテクニック 2. スリーウェイシリングテクニック	1. バキュームの目的と種類を説明できる。 2. バキュームの持ち方を説明できる。 3. バキューム操作の基本を説明できる。 4. バキュームチップ先端の向きを説明できる。 5. バキューム挿入禁忌部位を説明できる。 6. バキューム操作時の注意事項を説明できる。 7. スリーウェイシリングの使用目的を説明できる。 8. スリーウェイシリングの操作方法を説明できる。	高山
36	10/22	バキューム・スリーウェイシリングテクニック 2	1. 実習① 1) 使用済器材の洗浄 2) シーラーの取り扱い 3) 減菌パックの取扱い 2. 実習② マネキン実習	1. 使用後の器材の洗浄方法を説明できる。 2. シーラーの操作法を説明できる。 3. パッキング方法を説明できる。 4. マネキンを使用しバキュームチップの挿入法を確認できる。	高山
37	10/25	バキューム・スリーウェイシリングテクニック 3	1. 感染予防対策 2. 手指衛生(手指消毒) 3. マスクの装着 4. グローブの装着・脱着の手順 5. 実習 1) 手指消毒 2) マスク・グローブの装着 3) ユニットの清拭 4) ゴミの分別・廃棄	1. 手指消毒を実施できる。 2. マスクの着脱ができる。 3. グローブの着脱ができる。 4. ユニットの清拭ができる。 5. ゴミを分別して廃棄することができる。	高山
38	10/29	バキューム・スリーウェイシリングテクニック 4	相互実習 ① バキューム・スリーウェイシリングテクニック	1. 部位に応じたバキューム操作ができる。 2. 部位に応じたスリーウェイシリング操作ができる。 3. 吸引後、歯面を乾燥できる。 4. ヘッドレストの設定ができる。	高山
39	11/1	バキューム・スリーウェイシリングテクニック 5	相互実習 ②③ タービン使用時のバキュームテクニック	1. タービン使用時のバキューム操作ができる。 2. 吸引後、歯面を乾燥できる。	高山
40	11/5	バキューム・スリーウェイシリングテクニック 6		1. タービン使用時のバキューム操作ができる。 2. 吸引後、歯面のスプレー洗浄・乾燥ができる。	高山
41	11/8	バキューム・スリーウェイシリングテクニック 7	相互実習 ④ 全顎スプレー洗浄	1. 全顎のスプレー洗浄ができる。 2. 全顎スプレー洗浄時のバキューム操作ができる。	高山
42	11/12	ラバーダム防湿 1	基礎知識	1. 目的を説明できる。 2. 利点・欠点を説明できる。 3. 器具の名称と用途を説明できる。 4. 1歯露出の手順を説明できる。 5. 無翼型クランプの装着方法を説明できる。 6. 多数歯露出(前歯部)の手順を説明できる。	高山
43	11/15	歯冠修復材	金属、陶材、硬質レジン	金属、陶材、硬質レジンの特性について理解する。	土屋
44	11/19	ラバーダム防湿 2	実習 ① 1歯露出	目測法で1歯露出ができる。	高山

45	11/22	ラバーダム防湿 3	1. 2歯露出の手順 2. 実習 ② 1) 2歯露出 2) 1歯露出	1. 2歯露出の手順を説明できる。 2. 直接マーキング法で2歯露出ができる。 3. 時間を意識した1歯露出ができる。	高山
46	11/26	ラバーダム防湿 4	1. フォーハンド 2. 実習 ③ 1) フォーハンドでの1歯露出 2) 個人での1歯露出	1. フォーハンドでの1歯露出ができる。 2. フォーハンドでの1歯露出の介助ができる。 3. 個人での1歯露出の課題を明確にできる。 4. 個人での1歯露出の課題を改善できる。 5. 指定時間内に1歯露出ができる。	高山
47	11/29	歯肉圧排	1. 基礎知識 2. 歯肉圧排用薬剤の種類 3. 歯肉圧排の手順 4. その他の歯肉圧排用材料 5. 実習 機械的歯肉圧排法	1. 歯肉圧排の目的を説明できる。 2. 歯肉圧排法の種類を説明できる。 3. 使用器材を列挙できる。 4. 使用薬剤を説明できる。 5. 注意点を説明できる。 6. 模型上で機械的歯肉圧排ができる。	高山
48	12/3	成形修復材①	コンポジットレジン	コンポジットレジンの重合反応と特性について理解する。	土屋
49	12/6	隔壁 1	1. 基礎知識 2. 窩洞の名称 3. Black の窩洞の分類 4. 隔壁法 5. 歯間分離法 6. 実習 1) タッフルマイヤー型リテーナーの取り扱い 2) リテーナーへのマトリックスバンドの装着 3) 模型への装着	1. 窩洞の定義と種類を説明できる。 2. 隔壁の目的と種類を説明できる。 3. タッフルマイヤー型リテーナー各部の名称を説明できる。 4. マトリックスバンドをリテーナーに装着できる。 5. 模型上でマトリックスバンドを装着できる。	高山
50	12/10	隔壁 2	1. タッフルマイヤー型リテーナーによる隔壁法の介助 2. 実習 1) 個人 2) フォーハンド	1. 指定時間内にマネキン上でマトリックスバンドを装着できる。 2. フォーハンドでの隔壁法ができる。 3. フォーハンドでの隔壁法が介助できる。	高山
51	12/13	歯冠修復用レジン 1	1. 歯冠修復用レジン 2. アクリリックレジン 3. 成形修復 4. 成形修復材料	1. 歯冠修復用レジンの種類、用途を説明できる。 2. アクリリックレジンの組成、用途、特徴、操作法を説明できる。 3. 成形修復の意義を説明できる。 4. 成形修復材料の種類を説明できる。	高山
52	12/17	成形修復材②	その他の成形修復材	成形修復材の所要性質と種類について理解する。	土屋
53	12/20	歯冠修復用レジン 2	コンポジットレジン 1) 組成 2) 重合方式による分類 3) 接着システム	1. コンポジットレジンの組成、用途、種類を説明できる。 2. 化学重合型の特徴、操作法を説明できる。 3. 光重合型の特徴、操作法を説明できる。 4. 化学重合型と光重合型の相違点を説明できる。 5. 接着システムを説明できる。	高山

54	1/9	歯冠修復用レジン 3	1. 実習① 1) 化学重合型レジンの練和 2) CRシリンジの取り扱い 2. 従来型接着システムにおけるコンポジットレジン修復の術式 1) 化学重合型 2) 光重合型 3) 両者の相違点 4) 光重合照射器の種類 3. 仕上げ研磨 4. コンポジットレジン修復でのフォーハンド	1. 化学重合型レジンの練和ができる。 2. CRシリンジの取り扱いができる。 3. 従来型接着システムにおけるコンポジットレジン修復の器材を列挙できる。 4. 従来型接着システムにおけるコンポジットレジン修復の手順を説明できる。 5. 光重合型と化学重合型の手順の相違点を説明できる。 6. 仕上げ研磨の目的、器材、方法を説明できる。 7. コンポジットレジン修復でのフォーハンドを説明できる。	高山
55	1/10	合着材	合着材と接着材	合着材の硬化反応と特性について理解する。	土屋
56	1/17	歯冠修復用レジン 4	実習② 1) 個人での光重合型コンポジットレジン充填実習 2) フォーハンドでの光重合型コンポジットレジンの充填実習	1. 個人での光重合型コンポジットレジン充填ができる。 2. フォーハンドでの光重合型コンポジットレジン充填ができる。 3. フォーハンドでの光重合型コンポジットレジン充填が介助できる。	高山
57	1/21	接着材	接着材と表面処理	接着材の特性と歯面処理について理解する。	土屋
58	1/24	アルジネート印象材 7	概形印象採得(講義)	1. 採得の方法と手順を説明できる。 2. 介助の手順を説明できる。 3. 採得時の注意事項を説明できる。	巣山
59	1/28	アルジネート印象材 8	上顎概形印象採得(相互実習)	1. 印象採得の使用器材を準備できる。 2. トレーの試適ができる。 3. 口腔内にトレーを挿入し、圧接できる。 4. トレーを撤去できる。 5. 患者の安全に配慮できる。	巣山
60	2/4	アルジネート印象材 9	下顎概形印象採得(相互実習)	6. 印象体の評価ができる。 7. 印象採得の介助ができる。 8. 患者に配慮すべき点を考察できる。	巣山

科 目 名			担当教員名					
口腔生命科学入門Ⅰ			笠原悦男 他					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	前期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
歯科医療と口腔疾患の概要を学び、歯科臨床のシステムや流れを理解することによって、歯科衛生士の役割を自覚し、歯科医学を学ぶ基盤とする。								
教 科 書		歯科衛生士のための歯科臨床概論(医歯薬出版)						
成 績 評 価		定期試験、出席状況を評価対象とする。						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	4/16	歯科医療概論	歯科医療とは 歯科医療スタッフ	歯科医療の意義と特徴を説明できる。 歯科医療スタッフの役割を説明できる。				
2	4/23	歯科臨床①	歯科医療の対象 歯科臨床のかたち	主な歯科疾患が説明できる。 歯科の診療システムを理解する。				
3	5/7	歯科臨床②	専門分科と歯科診療の流れ 医療倫理	それぞれの診療科の特徴を説明できる。 対人関係の重要性を理解する。				
4	5/14	歯科医療のあゆみ	近代以前の歯科医療	魔術的医療から科学的医療へ				
5	5/21	現代の歯科医療	わが国の医療制度	現代の歯科医療の課題を理解する。				
6	5/28	歯科診療の概要 1	総合口腔診療部門	初診患者の対応				
7	6/4	歯科診療の概要 2		保存治療				
8	6/11	歯科診療の概要 3		補綴治療				
9	6/18	歯科診療の概要 4		歯周病治療				
10	6/25	歯科診療の概要 5	育成期口腔診療部門	小児歯科治療				
11	7/2	歯科診療の概要 6		矯正歯科治療				
12	7/9	歯科診療の概要 7	連携型口腔診療部門	口腔外科治療				
13	7/17	歯科診療の概要 8		障がい者歯科治療				
14	8/27	歯科診療の概要 9		歯科麻酔科医の仕事				
15	9/3	歯科診療の概要 10		エックス線検査				

科 目 名			担当教員名			
口腔生命科学入門Ⅱ			安藤宏、平岡行博、磯野員達			
学 年		学 期	単位数(時間数)			
第1学年		前期	2単位(30時間)			
授業の目的(GIO)						
「生物」において人体の基礎を、「化学」において生命現象を、そして「心理」において人のこころを学び、「人間」を理解すると共に専門科目の履修につながる基礎的な知識を習得する。						
教 科 書		六訂版スクエア最新図説生物 neo(第一学習社) <安藤> 全国歯科衛生士教育協議会 監修:「心理学」(医歯薬出版) <磯野>				
成 績 評 価		担当者ごとに試験を行い評価する。				
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標		
1	4/13	細胞の構造と機能	細胞小器官の働き	細胞の構造と細胞小器官の働きを理解する。		
2	4/20	細胞膜の透過性	細胞膜の透過性と浸透圧	物質による細胞膜の透過性の違いや浸透圧を理解する。		
3	4/27	酵素	タンパク質の構造と酵素	酵素の働きをタンパク質の構造から考え、生体の恒常性の重要さを理解する。		
4	5/11	呼吸	ATPと呼吸	生体のエネルギー利用を理解する。		
5	5/18	体液	血液の働き	血液の働きと体液の恒常性の重要性を理解する。		
6	5/25	酸素の毒性	老化の原因の1つは酸素が毒性を持つことである。	1. 露出着はしない。 2. タバコは吸わない。		
7	6/1	口腔組織の化学	結合組織の構成成分、歯の無機質	1. コラーゲンの機能を理解する。 2. 歯のフッ素塗布の意義を説明できる。		
8	6/8	生体中の Ca と P	血中カルシウム濃度の維持機構	1. Ca と P の生理的役割を理解する。 2. 骨粗鬆症の発症機序を説明できる。		
9	6/15	骨と歯の石灰化	アパタイトの形成機序	1. 石灰化の諸説を説明できる。 2. 骨のリモデリングを解説できる。		
10	6/22	唾液の化学	唾液成分の抗う蝕作用	1. う蝕の発生を説明できる。 2. 唾液の意義を理解する。		
11	7/2	見る・聞く・感じるこころ	知覚成立の基礎	知覚はどのように成立しているか知る。		
12	7/9	学ぶ・覚えるこころ	学習のプロセス	学習はどのように成立しているか知る。		
13	7/17	健康なこころ	メンタルヘルス	こころが健康な状態とは何か、また、それはどのように測定されるかを知る。		
14	8/27	カウンセリングのこころ	カウンセリングとは	患者さんへの支援の意義を理解する。		
15	9/3	思いを伝えあうこころ	医療コミュニケーションの基礎	歯科医療におけるコミュニケーションの意義を理解する。		

科 目 名			担当教員名					
英語コミュニケーション学			マエムラ ユウ オリバー					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	前期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
自信をもって英語でコミュニケーションを取れる歯科衛生士になるための授業								
教 科 書		配布資料						
成 績 評 価		積極的な授業参加と課題の完成度を総合的に評価する						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	4/16	Introduction	授業説明	概要・項目説明				
2	4/23	Lecture #1	自分を伝える	自己紹介の練習(特徴と印象)				
3	5/7	Lecture #2	自分を伝える	質問をしてみる、探ってみる				
4	5/14	Lecture #3	コミュニケーション理論	コミュニケーションとは				
5	5/21	Lecture #4	コミュニケーション理論	コミュニケーションとは				
6	5/28	Lecture #5	相手を考える	内部コミュニケーション				
7	6/4	Lecture #6	相手を考える	外部コミュニケーション				
8	6/11	Lecture #7	患者が伝えたいこと	感覚表現 Touch				
9	6/18	Lecture #8	患者が伝えたいこと	感覚表現 Taste & Smell				
10	6/25	Lecture #9	患者が伝えたいこと	感覚表現 See & Hear				
11	7/2	Lecture #10	患者に伝えたいこと	診察、健康状態を知るために何を伝える				
12	7/9	Lecture #11	患者に伝えたいこと	値段、時間、治療プロセスを伝える				
13	8/29	Lecture #12	患者に伝えたいこと	値段、時間、治療プロセスを伝える				
14	9/3	Lecture #13	講義を振り返る	振り返り				
15	9/10	試験						

科 目 名			担当教員名					
人体の構造と機能 I			堀部 寛治					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	前期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
<p>人体の構造と機能を学び、基礎歯科医学を学ぶ礎を築く。</p> <p>歯科医学では、ヒトの正常な身体について形態・構造の面から学ぶ解剖学と、機能の面から学ぶ生理学・生化学が最も基礎となる学問である。構造と機能は表裏一体であり、相関しながら学ぶ事により、より効率的に生体のメカニズムを理解できる。</p> <p>『人体の構造と機能 I』では、生体の機能を考えながら、構造に力点をおき、人体について学ぶ。</p>								
教 科 書		最新歯科衛生士教本『人体の構造と機能 I 解剖学・組織発生学・生理学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)						
成 績 評 価		定期試験による成績評価の他、出席状況などから総合的に評価する						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	4/12	人体の構造と機能 -序論-	1. 解剖学とは 2. 人体の構成と区分 3. 体の方向用語	1. 人体の構造と機能、解剖学の関連を説明する。 2. 人体の構成と区分を説明する。 3. 体の方向用語を説明する。				
2	4/19	骨格系	1. 骨の構造と機能 2. 人体を構成する骨	1. 骨の構造と機能を説明する。 2. 頭蓋、体幹、上肢・下肢を構成する骨を説明する。				
3	4/26	筋と運動	1. 筋の構造と機能 2. 全身の筋	1. 骨格筋の形態、骨との付着、起始・停止を説明する。 2. 全身に分布する骨格筋の名称と機能を説明する。				
4	5/17	消化・吸収	1. 消化・吸収とは 2. 消化器の構造と機能	消化器系を構成する器官の名称、構造と機能を説明する。				
5	5/24	循環	1. 脈管系の概要 2. 血管の構造と機能 3. 心臓の構造と機能 4. 動・静脈の構造と機能 5. リンパ系の概要	脈管系(心臓、動脈系、静脈系、リンパ系)の構造と機能を説明する。				
6	5/31	神経系 呼吸	1. 神経系の概要 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系 4. 呼吸とは 5. 呼吸器系の構造と機能	1. 神経の分類と機能を説明する。 2. 中枢神経(脳・脊髄)の構造と分布を説明する。 3. 末梢神経の構造と分布を説明する。 4. 呼吸器系を構成する器官の名称、構造と機能を説明する。				
7	6/7	感覚 排泄	1. 感覚器系の構造と機能 2. 泌尿器系の構造と機能	1. 感覚器系(外皮、視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器)の名称と構造を説明する。 2. 泌尿器系を構成する器官の名称、構造と機能を説明する。				
8	6/14	内分泌 生殖	1. 内分泌とは 2. 内分泌系の構造と機能 3. 生殖器系の構造と機能	1. 内分泌系器官の名称と構造を説明する。 2. ホルモンの作用を説明する。 3. 生殖器系器官の構造・機能を説明する。				
9	6/21	細胞の構造と機能	1. 細胞とは 2. 細胞の構造と機能 3. 細胞の一生	1. 細胞の基本構造と機能を説明する。 2. 細胞の一生(増殖、分化、死)について説明する。				
10	6/28	組織の構造と機能 I	1. 組織とは 2. 上皮組織	1. 細胞、組織、器官の階層を説明する。 2. 上皮組織の構造と特徴を説明する。				

11	7/5	組織の構造と機能 Ⅱ	1. 支持組織の概要 2. 結合組織の構造 3. 軟骨組織の構造 4. 骨組織の構造 5. 血液の構成	1. 支持組織の特徴を説明する。 2. 結合組織、軟骨組織、骨組織、血液の構造と特徴を説明する。	堀部
12	7/12	組織の構造と機能 Ⅲ	1. 筋組織の構造 2. 神経組織の構造	1. 筋組織の構造と特徴を説明する。 2. 神経組織の構造と特徴を説明する。	堀部
13	7/19	個体発生 Ⅰ	1. 個体発生の概要 2. 染色体と減数分裂 3. 受精と着床	1. ヒトの個体発生の概要を説明する。 2. 染色体と減数分裂について説明する。 3. 受精と着床を説明する。	堀部
14	8/23	個体発生 Ⅱ	1. 三胚葉の発生 2. 胚葉と器官形成	1. 三胚葉発生の概要を説明する。 2. 三胚葉と器官系の関連を説明する。	堀部
15	8/30	人体の構造と機能 —総括—	人体の構造と機能のまとめ	人体の構造と機能を復習、総括する。	堀部

科 目 名			担当教員名					
人体の構造と機能Ⅱ			上原俊介、北川純一、Zakir Hossain M					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	前期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
1. 生命現象を化学反応という視点から分析する。 2. 栄養素と生命現象の関わりを理解する。 3. 人体の正常な機能と機序を理解することにより、疾患の原因や治療について正しく理解できるようにする。								
教 科 書		全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 『人体の構造と機能 2 栄養と代謝』(医歯薬出版)〈上原〉 全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 『人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学』(医歯薬出版)〈北川〉						
成 績 評 價		ノート及び期末試験による						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	4/12	生化学と代謝	1. 生化学と分子 2. 物質代謝の基礎	1. 分子の概念と生体の主要な原子を説明できる。 2. 生化学的な生命現象の捉え方を説明できる。				
2	4/19	エネルギーと水	1. エネルギーと ATP 2. pH と緩衝液	1. ATP がエネルギーの通貨である理由を説明できる。 2. pH の概念と生体における緩衝液の意義を説明できる。				
3	4/26	糖質の代謝	1. 糖質の分類 2. ブドウ糖の分解とグリコーゲンの合成	1. デンプンと砂糖とブドウ糖の違いを説明できる。 2. ブドウ糖がエネルギーに変わる仕組みを説明できる。				
4	5/17	脂質の代謝	1. 脂質の分類 2. 脂肪酸の合成と分解	1. 中性脂肪とコレステロールの違いを説明できる。 2. 余剰のカロリーが脂肪に変わる仕組みを説明できる。				
5	5/24	タンパク質の代謝	1. タンパク質を構成するアミノ酸 2. アミノ基と尿素サイクル	1. アミノ酸の構造と必須アミノ酸の定義を説明できる。 2. アミノ基の代謝過程を説明できる。				
6	5/31	タンパク質の設計図としての遺伝子	1. 染色体と DNA 2. セントラルドグマ	1. 染色体と DNA の関係を説明できる。 2. DNA の情報とタンパク質とのつながりを説明できる。				
7	6/7	ビタミン	1. ビタミンの分類 2. 欠乏症	1. 水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンについて説明できる。 2. ビタミンの欠乏によって生じる疾患を説明できる。				
8	6/14	筋・運動	筋細胞・運動神経	筋肉が動くメカニズムと反射が説明できる。				
9	6/21	消化・吸収	消化管の機能	消化・吸収のメカニズムが説明できる。				
10	6/28	血液・循環	血液循環	1. 血液循環について説明できる。 2. 血液の組成と機能について説明できる。				
11	7/5	神経	中枢神経	神経の機能が説明できる。				
12	7/12	神経・呼吸	末梢神経・呼吸運動	1. 脳神経の機能が説明できる。 2. 呼吸運動のメカニズムが説明できる。				
13	7/19	感覚	体性感覚・特殊感覚	感覚受容器と伝達経路が説明できる。				
14	8/23	排泄・体温	排泄機能・体温調節	1. 排泄機能を説明できる。 2. 体温調節のメカニズムを説明できる。				
15	8/30	内分泌・生殖	内分泌調節・生殖機能	1. 内分泌調節のメカニズムが説明できる。 2. 女性の生殖機能が説明できる。				

科 目 名			担当教員名					
歯・口腔の構造と機能 I			奥村雅代、田所治、堀部寛治					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	前期		4単位(60時間)					
授業の目的(GIO)								
歯科医療に従事するものとして、歯科医学の基礎として、歯と口腔の構造と機能を学ばなければならない。								
歯と口腔の構造と機能は、学ぶ対象と視点から大きく以下の3つに分類される。								
1. 口腔の構造と機能 2. 歯の構造、種類と機能 3. 歯と口腔の組織構造と機能								
これらはいずれも臨床歯科医学を学ぶ上で必須となる事項である。								
教 科 書		最新歯科衛生士教本『歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)						
成 績 評 価		定期試験による成績評価の他、出席状況、ノートのまとめ方などから総合的に評価する。						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	4/17	口腔解剖学序論	口腔とは 口腔解剖学の概要	口腔の各部位の名称と特徴を説明する。 固有口腔と口腔前庭の特徴を説明する。				
2	4/18	歯の概要	歯の概要、歯の種類と歯式 歯の形態・方向と面、部位	歯の概要、種類、歯式を説明する。 歯の形態に関する用語を説明する。				
3	4/24	歯の表徴と概観	歯の外表面の特徴 歯の外観と内観	歯の3表徴を説明する。 歯の外観と内観を説明する。				
4	4/25	永久歯①	永久歯の種類と特徴 前歯の形態の特徴	永久歯の種類と特徴を説明する。 永久歯・前歯の形態と特徴を説明する。				
5	5/1	永久歯②	小臼歯の種類と特徴	小臼歯の形態の特徴を説明する。				
6	5/8	永久歯③	大臼歯の種類と特徴	大臼歯の形態の特徴を説明する。				
7	5/9	乳歯	乳歯の種類と特徴 乳歯の形態の特徴 歯の萌出と時期 乳歯の脱落機序と時期	乳歯の種類と特徴を説明する。 各乳歯の形態と特徴を説明する。 各乳歯の萌出機序と時期を説明する。 乳歯の脱落機序と時期を説明する。				
8	5/15	乳歯の鑑別	乳歯の鑑別演習	乳歯の鑑別を通じて、乳歯のかたちへの理解をより深める。				
9	5/16	永久歯の鑑別	永久歯の鑑別演習	永久歯の鑑別を通じて、永久歯のかたちへの理解をより深める。				
10	5/22	歯の配列と咬合	歯の配列と咬合の概要	歯の配列と咬合の概要を説明する。				
11	5/23	口腔の区分と構造	口腔前庭と固有口腔 口腔の構造	口腔の各部の名称と構造を説明する。				
12	5/29	舌と咽頭	舌のかたちと構造、機能 咽頭のかたちと構造、機能	舌各部の名称と構造、機能を説明する。 咽頭各部の名称と構造、機能を説明する。				
13	5/30	頭蓋骨	頭蓋骨の種類と構成	頭蓋を構成する骨を説明する。 頭蓋骨の外観と構成を説明する。				
14	6/5	口腔を構成する骨	上顎骨と口蓋骨 下顎骨	上顎を構成する骨を説明する。 下顎を構成する骨を説明する。				
15	6/6	下顎の筋と顎関節	咀嚼筋の起始と停止、作用 顎関節の構造と機能	下顎運動に関わる筋を説明する。 顎関節の構造と機能を説明する。				
16	6/12	頭頸部と顔面の筋	舌骨上筋と舌骨下筋 表情筋の起始と停止、作用	頸部の筋と前頸三角を説明する。 表情筋の起始と停止、作用を説明する。				
17	6/13	口腔付近に分布する動脈	口腔付近に分布する動脈	頭頸部と顎顔面部に分布する動脈を説明する。				

18	6/19	静脈とリンパ	口腔付近に分布する静脈とリンパ	口腔付近に分布する静脈とリンパを説明する。	奥村
19	6/20	神経①	末梢神経と自律神経	末梢神経と自律神経の構成と機能を説明する。	奥村
20	6/26	神経②	三叉神経、顔面神経	三叉神経と顔面神経の構成と機能を説明する。	奥村
21	6/27	神経③	舌咽神経、迷走神経、舌下神経	舌咽神経、迷走神経、舌下神経の構成と機能を説明する。	奥村
22	7/3	歯と口腔の組織序論 エナメル質	歯と口腔を構成する組織の概要 エナメル質の組織構造と機能	歯と口腔を構成する組織の概要を説明する。 エナメル質の組織構造と機能の特徴を説明する。	堀部
23	7/4	象牙質	象牙質の組織構造と機能	象牙質の組織構造と機能の特徴を説明する。	堀部
24	7/10	歯髄 セメント質	歯髄の組織構造と機能 セメント質の組織構造と機能	セメント質の組織構造と機能の特徴を説明する。 歯髄の組織構造と機能の特徴を説明する。	堀部
25	7/11	歯根膜 歯槽骨	歯根膜の組織構造と機能 歯槽骨の組織構造と機能	歯根膜の組織構造と機能の特徴を説明する。 歯槽骨の組織構造と機能の特徴を説明する。	堀部
26	7/18	歯肉 口腔粘膜	歯肉の区分と組織構造 口腔粘膜の組織構造と機能	歯肉の区分と組織構造の特徴を説明する。 口腔粘膜の組織構造と機能の特徴を説明する。	堀部
27	8/28	口腔組織発生①	鰓弓、顔面と口蓋の形成	鰓弓および顔面と口蓋形成の概要を説明する。	堀部
28	8/29	口腔組織発生②	歯の発生	歯の発生の概要を説明する。 歯周組織の発生の概要を説明する。	堀部
29	9/4	歯と口腔の組織①	歯の組織構造	歯の組織構造について、スライドを用い実習する。	堀部
30	9/5	歯と口腔の組織②	歯周組織の組織構造	歯周組織の組織構造について、スライドを用い実習する。 歯と口腔の組織について総括する。	堀部

科 目 名			担当教員名		
歯・口腔の構造と機能 II			北川純一、上原俊介、Zakir Hossain M		
学 年	学 期		単位数(時間数)		
第1学年	前期		2単位(30時間)		
授業の目的(GIO)					
1. 口腔内に存在する成分の性質を理解する。 2. それらの成分が口腔内での現象とどのように関わるかを理解する。 3. 口腔の正常な機能と機序を理解することにより、疾患の原因や治療について正しく理解できるようにする。					
教 科 書		全国歯科衛生士教育協議会監修: 最新歯科衛生士教本『歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』(医歯薬出版)〈北川〉 全国歯科衛生士教育協議会監修: 最新歯科衛生士教本『人体の構造と機能 2 栄養と代謝』(医歯薬出版)〈上原〉			
成 績 評 価		ノート及び期末試験による			
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標	担当
1	4/13	感覚	脳神経・感覚機能	口腔内の感覚が説明できる。	北川 Hossain
2	4/20	咬合・咀嚼	咬合と咀嚼運動	咀嚼運動の役割とメカニズムが説明できる。	北川 Hossain
3	4/27	嚥下・嘔吐	嚥下反射・嘔吐反射	嚥下反射、嘔吐反射のメカニズムが説明できる。	北川 Hossain
4	5/11	発声	発声の機序	発声のメカニズムが説明できる。	北川 Hossain
5	5/18	唾液	唾液の性状と機能	唾液分泌の機序や機能が説明できる。	北川 Hossain
6	5/25	歯と歯周組織	歯と歯周組織の構造	歯と歯周組織の構造と機能が説明できる。	北川 Hossain
7	6/1	総括	口腔機能	口腔機能のメカニズムが説明できる。	北川 Hossain
8	6/8	タンパク質の構造と機能	1. 酵素の性質 2. 立体構造と翻訳後修飾	1. 酵素と触媒の違いについて説明できる。 2. タンパク質の機能を修飾する仕組みを説明できる。	上原
9	6/15	結合組織	1. 細胞外マトリクス 2. 線維状タンパク質	1. 細胞外のタンパク質の分類を説明できる。 2. コラーゲン分子の特徴を説明できる。	上原
10	6/22	歯の構成成分	1. 歯の無機成分 2. 歯の有機成分	1. ヒドロキシアパタイトの構造と特徴を説明できる 2. エナメル質、象牙質に特有の有機成分を説明できる。	上原
11	6/29	石灰化とカルシウム調節	1. 石灰化機構 2. 血中カルシウム濃度の調節	1. 骨や歯の石灰化の仕組みを説明できる。 2. カルシウム調節に関わるホルモンを説明できる。	上原
12	7/6	唾液の成分	1. 唾液の無機成分 2. 唾液の有機成分	1. 重炭酸イオンと緩衝能について説明できる。 2. 抗菌作用に関わる有機成分を説明できる。	上原
13	7/13	歯の堆積物	ペリクル、プラーク、歯石	後天的に歯に堆積するペリクル、プラーク、歯石の組成と形成機構を説明できる。	上原
14	7/20	免疫の概説	自然免疫と獲得免疫	免疫系に関わる細胞とそれらが産生する脂質メディエーター、抗体、サイトカインについて説明できる。	上原
15	8/24	口腔疾患の免疫	歯周疾患と免疫	歯周疾患と免疫系との関わり、免疫系が働くことによって生じる病態について説明できる。	上原

科 目 名			担当教員名					
口腔衛生学 I			定岡 直					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	前期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
歯・口腔の疾病予防と健康の保持増進のための原理を理解し、健康づくりの方策を学ぶ。								
地域社会における集団レベルでの疾病予防、健康管理に必要とされる知識を学ぶ。								
教 科 書		最新歯科衛生士教本『保健生態学』第2版(医歯薬出版)						
成 績 評 価		受講態度および定期試験						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	4/13	歯・口腔の健康増進①	口腔環境の健康と予防の定義と方法	WHOが定めた健康の定義、Leavell & Clark の予防の水準、ハイリスクストラテジー・ポピュレーションストラテジーを説明できる。				
2	4/20	歯・口腔の健康増進②	WHOの口腔保健目標・健康日本21と健康増進法、歯科口腔保健法	WHO2020 の目標、健康日本21の成り立ちや経過、健康増進法、歯科口腔保健法を説明できるようにする。				
3	4/27	歯・口腔の構造①	歯・歯周組織・口腔粘膜・舌・頸関節	歯と口腔の構造について説明できるようにする。				
4	5/11	歯・口腔の構造②	唾液腺・口腔の発生・歯の石灰化・萌出・形成時期・形成異常	唾液腺の種類や働きについて説明できる。 歯と口腔の形成及び発育について説明できる。				
5	5/18	歯・口腔の構造③	口腔機能(咀嚼・発音)・全身の健康との関連性	口腔の機能や全身の健康との関連性について説明できる。				
6	5/25	歯・口腔の不潔	歯・口腔の付着物	プラーク、歯石の形成について説明できる。				
7	6/1	口腔清掃	口腔清掃法の種類、歯磨剤	歯磨剤の組成、配合目的、薬効成分を説明できる。				
8	6/8	歯科疾患の疫学	歯科疾患の疫学的特性	歯科疾患の疫学的特性について説明できる。				
9	6/15	う蝕の予防①	う蝕の基礎知識	う蝕発生要因、機序、リスク評価を説明できる。				
10	6/22	う蝕の予防②	う蝕の予防方法	う蝕発生要因に対応した予防法を説明できる。				
11	6/29	う蝕の予防③	歯とフッ化物	フッ化物によるう蝕予防について説明できる。				
12	7/6	歯周疾患の予防①	歯周疾患の基礎知識	歯周疾患の分類、発生要因、機序、進行を説明できる。				
13	7/13	歯周疾患の予防②	歯周疾患の予防方法	歯周疾患の予防方法を説明できる。				
14	7/20	その他の疾患の予防	口臭・不正咬合の予防	口臭の原因と予防について説明できる。				
15	8/24	ライフステージごとの口腔保健管理	各年代の口腔保健管理	各年代の口腔健康管理について説明できる。				

科 目 名			担当教員名					
歯科衛生士概論			島田陽子、笠原悦男					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	前期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。								
教 科 書		最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論(医歯薬出版)						
成 績 評 価		定期試験結果およびプレゼンテーションを評価対象とする。						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	4/18	概説	歯科衛生士の業務	1. 歯科衛生士の定義を述べることができる。 2. 歯科衛生業務の構成要素を説明できる。 3. 「健康」について述べることができる。				
2	4/25	歯科医療1	歯・口の健康と疾病・異常	1. 健康とは何か説明できる。 2. 歯・口の健康について説明できる。 3. おもな歯・口の疾病と異常を概説できる。				
3	5/9	歯科医療2	歯科医療保健を支えるもの	1. 歯科医療の目標を説明できる。 2. 歯科医療の内容と特異性を列挙できる。 3. 治療方法から見た歯科医療の分野を説明できる。				
4	5/16	歯科衛生士の歴史	歯科衛生の誕生～展望	1. 日本の歯科衛生の誕生について概説できる。 2. 歯科衛生士の誕生について概説できる。				
5	5/23	科学的思考	歯科衛生活動のための理論	1. 予防の概念を説明できる。 2. EBM、批判的思考を説明できる。 3. 保健行動の理論を説明できる。 4. ヒューマンニーズ理論を説明できる。				
6	5/23	歯科医療3	松本歯科大学病院見学1	1. 身だしなみを整えることができる。 2. 見学時の注意事項に基づき行動できる。 3. 不明な点は担当者に質問できる。 4. 病院で働く歯科衛生士の行動に注目できる。 5. 実習記録を作成できる。				
7								
8	5/30	歯科衛生士法	歯科衛生士法と歯科衛生業務	1. 業務独占、名称独占を説明できる。 2. 歯科衛生士の法的義務を説明できる。 3. 歯科衛生業務に関連する法規を列挙できる。				
9	5/30	歯科医療4	松本歯科大学病院見学2	1. 身だしなみを整えることができる。 2. 見学時の注意事項に基づき行動できる。 3. 不明な点は担当者に質問できる。 4. 病院で働く歯科衛生士の行動に注目できる。 5. 実習記録を作成できる。				
10								
11	6/6	歯科衛生過程	歯科衛生過程の活用	1. 歯科衛生過程を活用する意義を説明できる。 2. 歯科衛生過程を説明できる。 3. 歯科衛生過程のプロセス、構成要素を列挙できる。 4. POS、SOAPを概説できる。				

12	6/13	安全管理	医療におけるリスクマネジメント	1. 安全管理の必要性を説明できる。 2. 安全管理についての法的責任について説明できる。	島田
13	6/20	医療倫理	歯科衛生士と医療倫理	1. 医の倫理について概説できる。 2. 歯科衛生と倫理について説明できる。 3. インフォームドコンセントを説明できる。 4. インフォームドチョイスを説明できる。 5. セカンドオピニオンを説明できる。	島田
14	6/27	患者対応1	接遇の基礎(敬語)	尊敬語・謙譲語・丁寧語で表現できる。	島田
15	7/4	患者対応2	接遇の基礎(言葉遣い)	患者対応に適した言葉遣いができる。	島田
16	7/11	患者対応3	ホスピタリティー	1. ホスピタリティーについて討議できる。 2. 歯科医療におけるホスピタリティーを討議できる。	島田
17	7/18	歯科衛生士の活動	歯科衛生士の活動	1. 歯科衛生士の活動の領域を説明できる。 2. 歯科医療従事者の就業者数の推移を概説できる。 3. 医療・保健・福祉それぞれの業務を概説できる。	島田
18	8/29	チーム医療	多職種連携 海外における歯科衛生士	1. チーム医療について概説できる。 2. NSTについて説明できる。 3. 海外における歯科衛生士の現状を概説できる。	島田
19	9/5	歯科衛生士業務の展開	目標とする歯科衛生士像を考える	自分のを目指す歯科衛生士像をプレゼンテーションできる。	島田

科 目 名			担当教員名					
医療コミュニケーション			岡藤範正、森 啓					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第 1 学年	後期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
医療従事者として必要なコミュニケーションに関する知識と技術を習得する。								
教 科 書		指定しない						
成 績 評 価		受講態度および定期試験によって評価する						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	10/2	導入	医療コミュニケーションの概要	医療コミュニケーションの基本理念を理解する。				
2	10/9	倫理と態度	医療人としての倫理と態度	医療人として必要な倫理および態度を理解し、説明し実施できる。				
3	10/16	基本的事項	コミュニケーションの基本的スキル	コミュニケーションにおける基本的スキルを理解し説明することができる。				
4	10/23	ポートフォリオ	ポートフォリオとは何か	ポートフォリオの活用法を理解する。				
5	10/30	子ども・高齢者・障害者	子どもとその保護者・高齢者、障害児・者に対するコミュニケーション	子どもとのその保護者に対するコミュニケーションにおける特性を理解し説明することができる。 コミュニケーションを理解し説明することができる。高齢者、障害児・者のコミュニケーションの特性を理解することができる。				
6	11/6	行動変容①	行動変容法の基本的知識	行動変容法の基本的理念を理解し説明できる。				
7	11/13	コミュニケーションスキル	コミュニケーションスキルの重要性	コミュニケーションスキルとは何かを理解する。				
8	11/20	行動変容②	行動変容法の応用	行動変容の過程を理解し、それぞれの過程に適した対応を考慮し実施できる。				
9	11/27	コミュニケーション理論	患者のモチベーション	動機づけの概念を理解する。				
10	12/4	ロールプレイ	学生同士にてシミュレーションを試みる	コミュニケーションを理解し、お互いの立場の違いを体験、理解する。				
11	12/11	SGD	Small group discussion (SGD) を試みる	Small group discussion (SGD) を理解する。				
12	12/18	模擬患者 session	模擬患者とのコミュニケーションを体験する。	模擬患者とのロールプレイにより患者心理を理解する。				
13	1/15	診療への備え	臨床の現場における実際のコミュニケーション	医療現場におけるコミュニケーションを理解し実施できる。				
14	1/22	プロフェッショナリズム	医療人として行動規範	プロフェッショナリズムについて考える。				
15	2/5	まとめ	講義全体のまとめと補足	医療コミュニケーションの概要を説明できる。				

科目名			担当教員名		
言語表現					
学年	学期		単位数(時間数)		
第1学年	後期		2単位(30時間)		
授業の目的(GIO)					
1. さまざまな形で収集・検索した情報を要約する力を身につける。 2. 筋道を立てて考え、理解し、判断する力を身につける。 3. 自分が考え理解し判断した内容を、読み手や聞き手に効果的に伝える力を身につける。 4. 副教材に戯曲を用いて、言語表現(会話)だけで成り立つ演劇の背後にある各自の「想」「思惑」を考える。					
教科書		「大学生のための日本語の基礎—表現編一」、中西克己ほか、帝塚山大学出版会			
成績評価		授業への取り組み全体を見て、提出課題などをもとに、総合的に評価する。			
回数	日付	項目	講義内容	学習到達目標	担当
1	10/2	オリエンテーション	日本語の、言語としての「理解」と「表現」の双方向について考える。	私たちが日々使っている「日本語」という言語を改めて考える。	
2	10/9	漢字(その1)	同音異義語、同訓異字などの漢字の使い分けや、難読語の読みを学ぶ。	文章を書いたり読んだりする上で、適切に漢字を用いることができる。	
3	10/16	漢字(その2)	同音異義語、同訓異字などの漢字の使い分けや、難読語の読みを学ぶ。	文章を書いたり読んだりする上で、適切に漢字を用いることができる。	
4	10/23	慣用句・成句(その1)	四字熟語、ことわざなどを含む慣用句の使い方について学ぶ。	文章を書いたり読んだりする上で、適切に慣用句を用いることができる。	
5	10/30	慣用句・成句(その2)	四字熟語、ことわざなどを含む慣用句の使い方について学ぶ。	文章を書いたり読んだりする上で、適切に慣用句を用いることができる。	
6	11/6	4コマあて	インフォメーションギャップを用いたペアワークを行う。	文章を用いて、誰かに何かを伝えるというのはどのようなことか体験する。	
7	11/13	課題学習(レポートの書き方:その1)	ある一つのテーマについて自ら情報を得て、得た情報とそれに対する自分の考えを対応させて発表する。	情報の適切な取り扱い方、事実と意見を区別することについて学ぶ。	
8	11/20	語彙を増やす	類義語、対義語や、二字熟語の構成などについて学ぶ。	一つの言葉というものに対して多様な視点を持てるようになる。	
9	11/27	文の組み立て	主語と述語の対応、修飾・被修飾の関係を意識する練習を行う。	主語と述語の対応、修飾・被修飾の関係に注意して文章を読むことができる。	
10	12/4	ことばあて	インフォメーションギャップを用いたペアワークを行う。	文章を用いて、誰かに何かを伝える際にはどうしたらいいかに気づく。	
11	12/11	文の並び替え	文と文との関係や、文章の流れ(筋道)を意識する練習を行う。	文と文との関係や、文章の流れ(筋道)に注意して文章を読むことができる。	
12	12/18	図形あて	インフォメーションギャップを用いたペアワークを行う。	文章を用いて、誰かに何かを伝える際には何を意識すればよいかがわかる。	
13	1/15	文の中の言葉	文章中の指示語や比喩表現などについて、それらが何を指しているかについて考える。	文章中の指示語や比喩表現などがそれぞれ何を指しているか理解できる。	
14	1/22	課題学習(レポートの書き方:その2)	グループごとにテーマを見つけ、それについて手分けして調べる。	日常のふとした疑問を発展させ、問題提起をすることができる。	
15	2/5	課題学習(レポートの書き方:その3)	得た情報を基に、自分たちの考え(結論)をまとめ、クラスで発表する。	適切な調査・検討のプロセスを経て、自分たちの考え(結論)が導き出せる。	

科 目 名			担当教員名					
病理学・口腔病理学			嶋田勝光、落合隆永					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	後期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
歯科臨床における各種疾患の病態の把握、治療に関する病理学的基盤、すなわち基本病変の病因、病態、転帰について習得する。その上で、とくに口腔・顎顔面領域に起こる疾患について理解する。								
教 科 書		新・歯科衛生士教育マニュアル 病理学(クインテッセンス出版株式会社)						
成 績 評 価		講義内容に対する筆記試験(記述式、多岐選択式)によって評価を行う。						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	10/5	病因論	内因、外因	病因論について理解する。				
2	10/12	代謝障害	変性、萎縮、壊死、アポトーシス、代謝障害、内分泌障害	代謝障害を分類し列挙、それぞれを説明する。				
3	10/19	増殖と修復	細胞の増殖と分化、肥大と再生、化生、再生、肉芽組織	増殖と修復について分類すると共にそれぞれを説明する。				
4	10/26	循環障害	循環系、水腫、虚血、充血、出血とその素因、血液凝固機序と血栓症、塞栓症、ショック、傍側循環、高血圧と低血圧	循環障害を分類し、それぞれを説明する。				
5	11/2	炎症と感染症、免疫とその異常、遺伝性疾患と奇形	炎症の定義、原因、組織変化、炎症性細胞とケミカルメディエーター、急性炎症、慢性炎症、炎症の転機、名称と種類、病原微生物と炎症反応、日和見感染、免疫応答、移植免疫、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症候群、遺伝性疾患	炎症と感染症、免疫とその異常、遺伝性疾患と奇形を理解する。				
6	11/9	腫瘍総論	腫瘍概論、腫瘍組織と細胞、腫瘍の発生、腫瘍の原因、腫瘍の増殖、良性と悪性、腫瘍の分類、疫学	腫瘍の本態を理解する。				
7	11/16	歯の発育異常、損傷と付着物、う蝕	大きさの異常、形の異常、数の異常、構造の異常、色の異常、萌出の異常、位置の異常、咬合の異常、歯の機械的・化学的損傷、プラク、歯石、歯の着色、う蝕	歯の発育異常、損傷と付着物、う蝕についてそれぞれ説明する。				
8	11/30	象牙質・歯髓複合体の病変	循環障害、歯髓炎、傷害、修復と治癒	象牙質・歯髓複合体に起こる病変を分類し、説明する。				
9	12/7	根尖性、辺縁性歯周組織の病変	歯肉病変、歯肉炎、歯周炎	根尖性、辺縁性歯周組織の病態を説明する。				

10	12/14	歯科治療に伴う治癒の病理	歯周治療、抜歯創、歯の破折、骨折、再植、インプラント、移動の病理	歯科治療に伴う治癒の状態を理解する。	嶋田
11	1/11	口腔の発育異常、奇形	顔面・口腔の発生とその奇形、発育異常	口腔の発育異常、奇形を分類する。	嶋田
12	1/18	口腔粘膜疾患、口腔癌、前癌病変	色調異常、粘膜上皮の疾患、前癌病変、口腔癌	口腔粘膜疾患、口腔癌、前癌病変を説明する。	嶋田
13	1/25	口腔の囊胞	歯原性囊胞、非歯原性囊胞	口腔の囊胞を分類する。	嶋田
14	2/1	口腔の腫瘍、腫瘍性病変	歯原性腫瘍、唾液腺腫瘍	口腔の腫瘍、腫瘍性病変を分類する。	嶋田
15	2/8	加齢、全身疾患と口腔病変	加齢に伴う口腔病変、全身疾患	加齢、全身疾患と口腔病変について理解する。	嶋田

科 目 名			担当教員名		
薬理学・歯科薬理学			今村泰弘		
学 年	学 期		単位数(時間数)		
第1学年	後期		2単位(30時間)		
授業の目的(GIO)					
<p>薬物は薬理作用をもつ化学物質であり、生体のメカニズムを変化させ、病気の治療や予防を目的として適応される。従って、薬物による生体メカニズムへの影響を理解することは重要である。また、疾患に対する薬物の作用や影響などの知識が必要となる。これらの内容に加え、薬理学の背景(生理学・生化学・微生物学など)を踏まえて総合的に理解することを目的とする。</p>					
教 科 書		全国歯科衛生士教育協議会 監修: 『疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学』(医歯薬出版)			
成 績 評 価		筆記試験、出席状況			
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標	担当
1	10/3	総論1	薬物の定義と分類 薬物の作用	1. 法律による薬物の定義と分類を理解する。 2. 薬理作用の基本形式とメカニズムを理解する。	今村
2	10/17	総論2	薬物動態1	1. 薬物動態の基本事項を理解する。 2. 薬物の投与方法、反復・併用効果を理解する。	今村
3	10/24	総論3	薬物動態2 薬物の副作用、医薬品の開発	1. 薬効に影響を及ぼす要因を理解する。 2. 薬物の副作用、医薬品の開発を理解する。	今村
4	10/31	中枢神経系と薬	中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔薬、催眠薬、向精神薬、抗てんかん薬、鎮痛薬の作用を理解する。	今村
5	11/7	末梢神経系と薬1	自律神経系に作用する薬物 筋弛緩薬	1. 交感神経・副交感神経作動薬・遮断薬の作用を理解する。 2. 筋弛緩薬の作用を理解する。	今村
6	11/14	末梢神経系と薬2	局所麻酔薬	1. 局所麻酔薬の分類と作用機序を理解する。 2. 局所麻酔薬の適応、効果、副作用を理解する。	今村
7	11/21	循環・呼吸器系と薬	循環器系・呼吸器系に作用する薬物	1. 高血圧・不整脈・心不全・狭心症・高脂血症治療薬の作用を理解する。 2. 気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬の作用を理解する。	今村
8	11/28	血液と薬	止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬	1. 血液凝固系と線溶系の機序を理解する。 2. 止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬の作用を理解する。	今村
9	12/5	炎症と薬	抗炎症薬、解熱鎮痛薬	1. 炎症を理解する。 2. ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬の作用を理解する。	今村
10	12/12	免疫と薬1	免疫増強薬、免疫抑制薬	1. 免疫反応、アレルギー反応を理解する。 2. 免疫増強薬、免疫抑制薬の作用を理解する。	今村
11	12/19	免疫と薬2 悪性腫瘍と薬	抗アレルギー薬、ワクチン 抗悪性腫瘍薬	1. 抗アレルギー薬、ワクチンの作用を理解する。 2. 抗悪性腫瘍薬の作用を理解する。	今村
12	1/16	ビタミン・ホルモンと薬	ビタミン、ホルモン 糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬	1. ビタミン、ホルモンの作用を理解する。 2. 糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬の作用を理解する。	今村
13	1/23	感染症と薬1	抗感染症薬、抗ウイルス薬	抗感染症薬、抗ウイルス薬の分類と作用を理解する。	今村
14	1/30	感染症と薬2	消毒薬	1. 消毒薬の種類と用途を理解する。 2. B型肝炎ウイルス、ヒト免疫不全ウイルスなどに有効な消毒薬を理解する。	今村
15	2/6	歯科疾患の回復を促進する薬	歯・歯髄疾患と薬 歯周疾患と薬 顎・口腔粘膜疾患と薬 服薬指導	1. 歯と歯髄疾患及びその治療薬を理解する。 2. 歯周疾患及びその治療薬を理解する。 3. 顎・口腔粘膜疾患及びその治療薬を理解する。 4. 服薬指導を理解する。	今村

科 目 名			担当教員名					
微生物学・口腔微生物学			中村 卓					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	後期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
微生物の基本的知識を学び、人と感染症の関係を理解する。								
教 科 書		全国歯科衛生士教育協議会監修: 『疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学』(医歯薬出版)						
成 績 評 価		小テストと定期試験による						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	10/4	微生物の種類	細菌、真菌およびウイルスの特徴	微生物と呼ばれる生物群を理解し、各微生物の違いを説明できる。				
2	10/11	細菌の一般性状	細菌の観察方法、形態、構造、増殖	細菌の形態観察法、および細菌の一般性状が説明できる。				
3	10/18	滅菌と消毒	滅菌と消毒の定義、滅菌法、消毒法	滅菌と消毒の原理を理解し、具体的方法が説明できる。				
4	10/25	化学療法	化学療法薬、作用機序、薬剤耐性	作用機序による化学療法薬の分類ができる。				
5	11/1	感染	微生物の病原性と宿主の抵抗性	細菌の病原因子と宿主の自然抵抗性を説明できる。				
6	11/8	免疫	免疫の種類	体液性免疫と細胞性免疫の違いが説明できる。				
7	11/15	免疫	免疫機構、抗原抗体反応	抗原と抗体、および主な抗原抗体反応を説明できる。				
8	11/22	免疫	アレルギー	アレルギーの分類および定義を説明できる。				
9	11/29	病原微生物	グラム陽性菌、グラム陰性菌	主な病原細菌の細菌学的特徴と病原因子を説明できる。				
10	12/6	口腔細菌叢	口腔細菌叢と口腔環境	口腔内に多くの細菌が生息していることを理解し、口腔各部位の細菌叢の特徴が説明できる。				
11	12/13	う蝕	バイオフィルム、プラーク、ミュータンスレンサ球菌	プラークがう蝕の成立に重要であることを理解し、ミュータンスレンサ球菌とう蝕の関わりが説明できる。				
12	12/20	歯周病	歯周病原菌	歯周病の各病型に対応する細菌を理解し、それらの細菌学的特徴と病原因子を説明できる。				
13	1/10	その他口腔感染症	真菌症、病巣感染	真菌の一般性状とカンジダ・アルビカンスの特徴を説明できる。				
14	1/17	ウイルス	ウイルスの基本的性状	ウイルスの基本的性状を説明できる。				
15	1/24	ウイルス	DNA ウイルス、RNA ウイルス	ウイルスが原因となる主な感染症を理解し、その原因ウイルスの性状を説明できる。				

科 目 名			担当教員名					
口腔衛生学Ⅱ			定岡 直					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	後期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
公衆歯科衛生・地域歯科保健活動に必要な歯科疾患の疫学の基礎として歯科衛生統計について学ぶ。								
教 科 書		(1~9回)最新歯科衛生士教本『保健生態学』第2版(医歯薬出版) (10~15回)歯科衛生士テキスト 口腔衛生学—口腔保健統計を含む—第3版(学建書院)						
成 績 評 価		提出物、小テスト、受講態度および定期試験による						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	10/5	地域歯科保健総論①	地域歯科保健の概念・組織	地域歯科保健サービスの現状、組織(保健所・市町村保健センター)の仕組みについて説明できる。				
2	10/12	地域歯科保健総論②	8020運動、健康日本21、歯科口腔保健法、口腔保健福祉関連施策	8020運動、健康日本21、歯科口腔保健法の概要や数値目標を説明できる。				
3	10/19	母子歯科保健	妊娠婦、乳幼児歯科健康診査と保健指導	妊娠婦歯科健康診査、1歳6か月児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査を説明できる。				
4	10/26	学校歯科保健	児童・生徒の歯科健康診断と事後措置	学校歯科健康診断を説明できる。				
5	11/2	成人・高齢者歯科保健	成人・高齢者歯科保健の現状、課題および対策	高齢者医療確保法・健康増進法の口腔保健事業、高齢者・要介護者の歯科保健指導について説明できる。				
6	11/9	産業口腔保健	労働による健康障害 労働衛生管理の仕組み	産業保健・特殊健康診断を説明できる。				
7	11/16	国際歯科保健	国際的な口腔保健戦略と目標	世界の歯科疾患の状況、開発途上国の口腔保健戦略について説明できる。				
8	11/30	疫学の概論	観察疫学、分析疫学、介入疫学	疫学の研究方法と手法について説明できる。				
9	12/7	う蝕、歯周疾患に関する指標	DMF、dmf、DHC、RID、PMA、PI、PDI、GB Count、GI、CPI	う蝕、歯肉炎、歯周病に関する指標を説明できる。				
10	12/14	口腔清掃状態、歯のフッ素症、不正咬合の指標	OHI、OHI-S、PI、PHP、PCR、CFI	口腔清掃状態に関する指標を説明できる。				
11	1/11	統計調査方法Ⅰ	母集団、標本、標本抽出法、データの集計	標本抽出法、度数分布表、ヒストグラムを説明できる。				
12	1/18	統計調査方法Ⅱ	代表値、尺度水準、散布度、正規分布	正規分布、標本の代表値とバラツキ、4つの尺度水準について説明できる。				
13	1/25	統計調査方法Ⅲ	相関、平均値の差の検定 カイニ乗検定	相関関係、検定の目的と意味を説明できる。				
14	2/1	保健医療に関する国家統計調査	患者調査、歯科疾患実態調査、学校保健統計調査など	歯科に関する統計調査を説明できる。				
15	2/8	まとめ	これまでの講義の復習	ライフステージにおける歯科保健事業・疫学統計分析について説明できる。				

科 目 名			担当教員名					
衛生学・公衆衛生学			川原一郎					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	後期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
人々の健康を保持増進するための社会医学を理解し、包括的な問題解決方法の考え方を習得する。 口腔衛生学を学ぶのに必要な知識を整理する。								
教 科 書		最新歯科衛生士教本『保健生態学』第2版(医歯薬出版)						
成 績 評 價		出席数、提出物、小テスト、受講態度および定期試験により判定する。						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	10/5	総論	健康とその増進の目的 健康とヘルスプロモーション	健康と疾病の概念、プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。				
2	10/12	予防医学の概念	‘Leavell & Clark’の予防の概念	予防の3段階を説明できる。				
3	10/19	人口問題	人口の動向と人口統計	人口問題と集団の健康状況を説明できる。				
4	10/26	健康と環境①	空気、温熱、水	環境による健康への影響を説明できる。				
5	11/2	健康と環境②	放射線、廃棄物処理、環境保全	環境による健康への影響を説明できる。				
6	11/9	環境測定実習	室内空気環境測定、水質検査	環境による健康への影響を説明できる。				
7	11/16	感染症①	感染症の基礎と種類	感染症について説明できる。				
8	11/30	感染症②	感染症予防	感染予防について系統立てて説明できる。				
9	12/7	食品と健康	国民の栄養	日本人の食事摂取基準について理解し、我が国の食生活の現状と問題点について説明できる。				
10	12/14	疫学	疾病・異常の発生要因 疫学研究の方法論	疫学研究法の概要を説明できる。				
11	1/11	国際保健	国や地域による健康格差	開発途上国の健康問題とプライマリヘルスケアによる国際協力と組織について説明ができる。				
12	1/18	我が国の健康づくり	健康日本21	我が国の健康づくり対策の変遷と中心となる生活習慣病対策について説明ができる。				
13	1/25	まとめ①	これまでの講義で学んだ衛生学・公衆衛生学のまとめ、および全身疾患と口腔との関連性	口腔衛生学、衛生・公衆衛生学について復習する。				
14	2/1	まとめ②						
15	2/8	まとめ③						

科 目 名			担当教員名					
栄養学・栄養指導法			中村美どり、竹内由里					
学 年	学 期		単位数(時間数)					
第1学年	後期		2単位(30時間)					
授業の目的(GIO)								
1. ライフステージ別に必要な栄養を選択できる知識を習得する。 2. 栄養アセスメントを通じて、乳幼児期から老齢期の食事指導が行える能力を習得する。								
教 科 書		全国歯科衛生士教育協議会監修:『人体の構造と機能 2 栄養と代謝』(医歯薬出版)						
成 績 評 価		出席数、提出物と授業態度および期末試験結果から総合評価を行う。						
回数	日付	項 目	講 義 内 容	学 習 到 達 目 標				
1	10/4	栄養素の消化・吸収	栄養素の消化吸収	1. タンパクの消化吸収を説明できる。 2. 脂質の消化吸収を説明できる。 3. ミネラルの吸収を説明できる。				
2	10/11	栄養素の働き 1	糖質の栄養学	糖質の働きを説明できる。				
3	10/18	栄養素の働き 2	タンパク質の栄養学	タンパク質の働きを説明できる。				
4	10/25	栄養素の働き 3	脂質の栄養学	脂質の働きを説明できる。				
5	11/1	栄養素の働き 4	ビタミン・ミネラルの栄養学	1. ビタミンの働きを説明できる。 2. ミネラルの働きを説明できる。				
6	11/8	食生活と健康 1	国民の健康と栄養 望ましい食生活 1	1. 日本人の食生活の変遷を概説できる。 2. 「健康日本 21」と食の関係を概説できる。 3. 食生活指針を概説できる。				
7	11/15	食生活と健康 2	国民の健康と栄養 望ましい食生活 2	1. 健康食品・特別用途食品を説明できる。 2. 食品アレルギーを説明できる。				
8	11/22	生活習慣病予防	国民の健康と栄養 望ましい食生活 3	食育について説明できる。				
9	11/29	食べ物と健康	安全面からみた食生活 食品の成分と分類	食品の規格を概説できる。 食品成分表を概説できる。				
10	12/6	健康調査と評価	栄養調査の手法と評価	1. 国民健康栄養調査結果の概要 2. 栄養評価のまとめ				
11	12/13	栄養評価 1	食事摂取基準	1. 食事摂取基準とは何かを説明できる。 2. 個人のエネルギー必要量の求め方を説明できる。				
12	12/20	栄養評価 2	食事バランスガイド	1. 食事バランスガイドを説明できる。 2. 望ましい食事の組み合わせを考えて説明できる。				
13	1/10	栄養指導の実際 1	ライフステージ別食生活 1	1. 成長期、成人期の食生活の特徴を説明できる。				
14	1/17	食品の物性	食物形態の工夫	1. 摂食機能に適した食物形態の工夫を説明できる。				
15	1/24	栄養指導の実際 2	ライフステージ別食生活 2	1. 高齢期の食生活の特徴を説明できる。 2. 栄養指導の必要性を説明できる。				